

## 農家生活の質的向上に関する研究

### 第3報 北海道における農家夫妻の生活行動と生活時間構造

後 藤 郁 子<sup>1)</sup>・森 夏 節<sup>2)</sup>・飯 村 しのぶ<sup>3)</sup>

On the Improvement of Lifestyle in Farm Households  
(III) Daily Activities of the Husband and Wife Compared during  
the Four Seasons on Six Farm Types in Hokkaido

Ikuko GOTO, Kaori MORI and Shinobu IMURA  
(Sep. 1997)

#### 目 次

- 1 研究の視点
  - 2 研究目的
  - 3 調査方法
  - 4 生活時間の分類
  - 5 調査対象者の年齢構成
  - 6 農業経営の概況
  - 7 経営形態別・季節別にみた農家夫妻の生活行動  
と生活時間配分
    - (1) 生活必需時間
    - (2) 収入労働時間
    - (3) 家事・育児時間
    - (4) 社会的・文化的生活時間
  - 8 考察
  - 9 調査研究結果のまとめ
- 参考文献：資料  
資料編

#### 1 研究の視点

戦後の高度経済成長期を経て、生産優先がもたらした人的問題の発生を契機にして、「生活の質の豊かさ」が求められる時代となった。

農家生活においては、生産と生活をとおして、家族の健康や生き甲斐、ゆとりや充実感を実感できる生活の実現が大きく求められている。

そのためには、生産と生活の調和ある関連のもと、

「生活（人間）重視の農業」と「農家生活経営」のあり方が極めて重要である。

以上の視点にたって「農家生活の質的向上に関する研究」にとり組み、第1に「生活経営からみた農家生活の実態に関する調査」を実施した。ここでは調査結果に基づく、農家生活の現状と主婦の生活意識を明らかにし、第1報、第2報で報告を行った。続く第3報としての本報では、「生活の質」のアプローチの1つとして「年間四季別生活時間調査」を実施し、経営形態別農家夫妻の、時間消費行動を総合的に把握し、その特質や課題を考察することとした。

#### 2 研究の目的

家族の生活は従事する職業の内容によって大きな特徴を持つ。自然の中で農作物や家畜を育てる産業である農業は、農作物の成育と深い関わりを持ち、農作業歴が生活行動の根底にある。従って農業者の生活は、都市勤労者の生活とは異なる特徴をもっている。このため、家族経営農家においては農作業の繁閑が家族の生活リズムをかたち作ると共に、農作業時間消費のあり方が家族の生活に大きな影響を与えていている。

こうした中で、農業生産構造が著しく変容する北海道においても、農業と生活を担う農家女性の生活や、生甲斐につながる主体的生き方、夫と妻との合目的な役割分担のあり方などについて、多くの課題

1) 北海道文理科短期大学、教養学科、生活経営学研究室

Department of Culture, Home Management, Hokkaido College of Arts and Sciences, Ebetsu, Hokkaido, 069 Japan

2) 北海道文理科短期大学、経営情報学科、OAシステム研究室

Department of Information Management, OA System, Hokkaido College of Arts and Sciences, Ebetsu, Hokkaido, 069 Japan

3) 藤女子大学、人間生活学部、人間生活学科

Division of Human Ecology, Fuji Women's College, Ishikari, Hokkaido, 061-32 Japan

をかかえている。これらの課題を解決し、生活重視の農業のもとに質の高い農家生活を構築していく上の資とすることを目的として、北海道の経営形態別農家夫妻の生活時間調査を実施し実態を把握し、考察を行った。

なお、農家生活の特徴を生かし、生活の質的向上を進めるために必要な、全道的拡がりをもつ農家生活時間の構造に関する調査は、難易度が高く整備が遅れている現状にある。本研究結果が北海道農家の豊かな生活実現の為の基礎資料として活用されることも、併せて研究の目的とした。

### 3 調査方法

#### (1) 調査対象農家の選定

来るべき21世紀にむけて、豊かさの実感できる北海道農業と生活の実現のためには、経営の中堅として農業と生活を担う、30代から40代の農家夫妻の生産と生活のあり方が極めて重要である。このため、北海道における農業経営の特質を基にして、第1報で対象とした主婦の中から、妻とその夫を、各経営形態毎に(表3-1)、基本として各々15組宛選定した。

なお、経営形態別対象農家の選定は、担当地区農業改良普及センターに依頼した。

表3-1 調査対象者 (人)

項目	経営形態					計					
	稲作		畑作	野菜	酪農						
	専業	複合	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	
調査人数	15	15	16	16	16	15	15	15	15	92	92

#### (2) 調査対象地域の概要

##### 1) 地域別対象農家

地域別対象農家は、表3-2に示すとおりであり、第1報により報告した対象の中から各々選定した。

##### 2) 調査対象地域

調査対象地域は第1報で(図3-1)報告した地域と同一とし、全道8支庁にわたり、稲作専業、稲作複合、畑作、野菜、酪農、果樹の6形態を調査対象地域とした。

#### (3) 調査方法

##### 1) 調査内容……調査対象日(3日間)の午前0時から午後12時までの24時間の行動内容を、5分きざみで記録票に記入してもらう。集計は、3日

それぞれを独立したデータ(3

データ)として扱った。

2) 調査時期……春一平成7年(1995)5月～6月

夏一〃 7月～8月

秋一〃 9月～10月

冬一平成7年(1995)12月

平成8年(1996)1月

3) 日数……各季節毎各々3日間

4) 配布・回収方法……調査対象に直接記録票の

配布・記入方法の説明を行い、記入結果を直接又は郵送により回収した。

記録票の配布・回収は担当地区農業改良普及センターに依頼した。

表3-2 地域別経営形態別対象農家 (人)

支庁名	市町村名	経営形態	人 数		
			夫	妻	計
空知	新十津川町	稲作専業	7	7	14
	長沼町	稲作専業	8	8	16
上川	旭川市	稲作複合	9	9	18
	当麻町	稲作複合	7	7	14
十勝	帯広市	畑作	16	16	32
渡島	大野町	野菜	15	15	30
根室	中標津町	酪農	5	5	10
留萌	天塩町	酪農	10	10	20
後志	余市町	果樹	5	5	10
胆振	豊浦町	果樹	10	10	20
		計	92	92	184

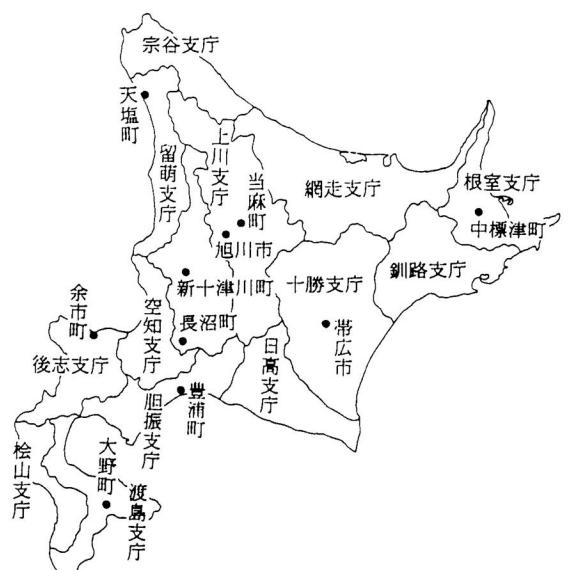


図3-1 調査対象地域の位置図

北海道行政区(支庁)及び調査対象地域

#### 4 生活時間の分類

##### (1) 生活時間分類の考え方

生活時間の分類には、調査の目的によって多少の相違がみられる。そのうち代表的な分類方法をいくつかみてみよう。

歴史的にみれば生活時間調査は労働者階級の生活問題研究の一環として、とくに労働時間の分析を中心に行ってきたといえる。1日10時間以上にも及ぶ長時間労働が労働者の全生活を支配し、自由な余暇といったものは成立していなかった。そうした状況から、やがて労働、休養、余暇の時間的なバランスの必要性が認識されるようになった。こうした立場から労働科学研究所・藤本武氏による生活時間の分類は、1日を収入生活時間と消費生活時間に三分し、前者は労働力を販売している時間、後者は労働力を販売していない時間、つまり1日24時間から労働時間を除いた残りの時間として位置づける。

これに対して、生活構造研究の立場にたつ篠山京氏は、生活時間を労働・休養・余暇に三分する。このうち、余暇とは単なるレジャーの時間ではなく、労働と休養以外のすべての生活時間であるとし、1日24時間の中で労働と休養がバランスをとっていて、しかも余暇がなくてはならないと考える。

総務庁「社会生活基本調査」では、1日を第1次活動（生理的生活）、第2次活動（労働的生活）、第3次活動（余暇的生活）に分類している。

一方、戦前に一度おこなわれ、戦後は昭和35年以降原則として5年ごとに実施されてきているNHK「国民生活時間調査」では、生活行動を睡眠・食事・身の回りの用事などの必需行動、仕事・学業・家事・社会参加などの拘束時間、レジャー活動・会話・交際・マスメディア接触・休息などの自由行動に分類している。

以上の各生活時間調査における分類を比較すると、およそ家事および学業に関わる時間の位置づけに相違点がみられるといえよう。つまり労働科学研究所・藤本武氏の分類では、家事と学業の時間は労働力を販売に関わらない時間、つまり消費生活時間に分類されているのに対し、それ以外ではいずれも学業と家事の時間を「次世代の労働力再生産に関わる時間」とか、「家庭や社会を維持向上させるために行う義務的・拘束性の高い行動」として有職者の仕事時間と同様に考え、労働時間や拘束時間に分類している。その他については、若干の小項目に関して相違はあるものの、おおむね分類の考え方は同じといえる。

##### (2) 本調査における生活時間分類

以上のように、生活時間の分類については、いくつかの考え方があるが、本調査ではもっとも一般的であり、調査結果の比較も可能な点からNHK国民生活時間調査の分類を基礎とし、さらに調査対象が農家であることを考慮して、表4-1のように分類した。

つぎに、分類上留意した点をあげる。

第1に、いわゆる生活必需時間として、睡眠・起床、食事、身の回りの用事、静養・療養に関わる時間を含めた。

第2に、収入に関わる労働時間は、農作業、農業用事務他、農外雇用労働に三分した。直接的に農作業に関わる時間の他に、農業の経営管理部門におけるとくに主婦の参加が期待されており、そういった実態を把握する目的も含まれている。また北海道においては、とくに気候条件上冬期間農作業が行えない場合もあり、その間どういった農外雇用労働に従事しているのかを知る必要もある。また、農作業中に、休憩やおやつの時間を規則的に設けていることも多く、休息時間は分類上は原則として自由時間に含まれるもの、農作業時間との関連で分析する必要もあると考える。

第3に、家事・育児の時間については、とくに主婦の側に農作業との「ながら行動」が多く、また炊事についても、準備とあと片づけとが嫁と姑で役割分担されているケースもあると考え、さらに細かく分類した。

第4には、いわゆる自由時間として、つきあい・交際、家族団らん、電話、手紙、レジャー活動、テレビ・ラジオ、新聞・読書、レコード・CD、ビデオ・映画、その他を含め、農家世帯の余暇活動の多様性を把握できるように考えた。

#### 5 調査対象者の年齢構成

##### (1) 年齢構成

調査対象の夫と妻の年齢構成は、表5-1のようになった。全体として30歳代は夫28.2%，妻50.0%，40歳代が夫67.4%，妻48.9%，夫は40歳代の構成が多く、妻は30歳代、40歳代各々2分の1づつの割合となった。なお、稻作専業に夫、稻作複合に夫と妻、畑作の夫及び果樹の夫の範囲外対象者があったが、基準年齢との差が僅少であったため、その他として集計を行った。

表4-1 行動分類一覧

No.	作業分類	No. 及び主な作業名
1	すいみん	すいみん、就寝
2	起床	起床時刻
3	食事	(晩酌を含む)
4	身の回りの用事	洗面、トイレ、入浴、身じたく(着替え)、化粧
5	療養・静養	病院、病気で寝ている、健康診断、レントゲン
6	農作業	601 トラクタ運転 602 その他の機械作業 603 機械の補助作業 604 耕うん、605 播種 606 育苗 607 田植え(含 苗切り、苗とり、苗運搬) 608 施肥 609 中耕 610 除草 611 害虫防除 612 灌水 613 水管理 614 温度管理 615 摘心 摘花、616 セン定、617 収穫(含 乾燥機調整、穀運搬・穀摺り、乾燥) 618 選別、荷造り 619 出荷 620 販売、観光果樹の仕事 621 搾乳 622 給餌 623 畜舎清掃 624 分娩の世話 625 その他(山菜とり、獣医との対応、など) 626 機械管理(含 準備) 627 野菜・果菜の栽培管理 628 園場見回り(含 管理) 629 農作業の後片付け 630 移植、631 ハウス管理 632 でめんのお八つ作り 633 農作業の雑用 634 堆肥作り 635 胡瓜の管理 636 花の管理 637 牛の世話 638 牛舎作業 639 果樹管理(摘果) 640 水田管理(倒伏おこし、溝切り等) 641 農産加工
7	農業用事務他	701 作目や品種の決定 702 作付、作業計画 703 農業機械、施設等の改善計画 704 販売、出荷計画 705 経営簿の記帳 706 農作業日記 707 青色申告 708 農業収入の管理 709 農業経営費の管理 710 経営方針の決定 711 その他(農業用買物、農協他) 712 農協など事務打ち合せ 713 農事講習会、展示会、研修会 714 パソコン
8	農外雇用労働	81 土木作業や会社などの農業外就労 82 自家以外の農作業に雇われる賃労働など
9	家事、育児	91 炊事 911 準備 912 後片付け 92 掃除 93 洗濯 94 買物 95 子供の世話 96 病人の世話 97 雑用 98 手伝い 99 家計簿の記帳 90 その他(家事、セールス対応など)
10	移動	101 通勤 102 自宅と仕事場(田、畑)間の移動 103 その他
11	つきあい・交際	111 地域行事への参加 112 冠婚葬祭 113 仕事上の会合、打ち合せ 114 交際、来客(友人、知人、隣人など) 115 学校行事、PTA 116 地域活動
12	家族だんらん	親子、夫婦などのコミュニケーション
13	電話	
14	手紙	
15	レジャー活動 (移動の時間を含む)	151 見物、観賞、まつり見物など 152 行楽(観光地・遊園地で遊ぶ、温泉・デパートへ行く) 153 ドライブ 154 その他(実家に行く、ペットの世話) 155 散歩 156 スポーツ 157 勝負ごと 158 趣味(庭づくり、花造りなど) 159 技能や資格の勉強
16	テレビ・ラジオ	161 テレビ 162 ラジオ 163 テレビゲーム
17	新聞・読書	171 新聞 172 読書
18	コード・CD	
19	ビデオ・映画	
20	休息	201 休憩(含 自由) 202 うたたね 203 お茶、おやつ 205 ほんやり過ごすなど
21	その他	211 宗教的おつとめなど 212 調査用紙記入、日誌、その他 213 ガソリン入れ、外出、床屋、選挙など
0	不明	

表 5-1 年齢構成

(人)

年 齡		稻作			畑作 (%)	野菜 (%)	酪農 (%)	果樹 (%)	計 (%)						
		専業	(%)	複合 (%)											
30~34歳	夫	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	2	13.3%	1	6.7%	6	6.5%		
	妻	0	0.0%	2	12.5%	3	18.8%	2	13.3%	4	26.7%	2	13.3%	13	14.1%
35~39歳	夫	1	6.7%	7	43.8%	1	6.3%	3	20.0%	4	26.7%	4	26.7%	20	21.7%
	妻	4	26.7%	8	50.0%	5	31.3%	6	40.0%	4	26.7%	6	40.0%	33	35.9%
40~44歳	夫	7	46.7%	5	31.3%	5	31.3%	6	40.0%	4	26.7%	5	33.3%	32	34.8%
	妻	8	53.3%	5	31.3%	2	12.5%	7	46.7%	5	33.3%	3	20.0%	30	32.6%
45~49歳	夫	6	40.0%	3	18.8%	8	50.0%	4	26.7%	5	33.3%	4	26.7%	30	32.6%
	妻	3	20.0%	0	0.0%	6	37.5%	0	0.0%	2	13.3%	4	26.7%	15	16.3%
その他の	夫	1	6.7%	1	6.3%	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	4	4.3%
	妻	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%
計	夫	15	100.0%	16	100.0%	16	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	92	100.0%
	妻	15	100.0%	16	100.0%	16	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	92	100.0%

表 6-1 農作業従事者構造

(人)

人数および雇用形態		稻作			畑作 (%)	野菜 (%)	酪農 (%)	果樹 (%)	計 (%)						
		専業	(%)	複合 (%)											
家族のみ	2人	5	55.6%	3	27.3%	5	31.3%	6	40.0%	8	53.3%	2	13.3%	29	35.8%
	3人	1	11.1%	3	27.3%	7	43.8%	3	20.0%	2	13.3%	3	20.0%	19	23.5%
	4人	2	22.2%	5	45.5%	3	18.8%	3	20.0%	4	26.7%	5	33.3%	22	27.2%
	5人	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	1	6.7%	0	0.0%	1	6.7%	3	3.7%
	6人	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	1	6.7%	2	13.3%	5	6.2%
	7人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	2	13.3%	3	3.7%
	対象戸数	9	100.0%	11	100.0%	16	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	81	100.0%
家族+雇用	常住	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%
	季節	6	100.0%	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	100.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	対象戸数	6	100.0%	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	100.0%

## 6 農業経営の概況

### (1) 農業従事者構造

農業従事者構造の大きな特徴は、表 6-1 にみるよう、6 経営形態農家のうち稲作経営農家のみが雇用労働者を入れ、雇用形態は、両形態とも季節的雇用形態で占められ、農作業の繁忙が季節的に特徴のあることを示している。家族労働のみによる従事構造をみると、経営形態各々に特徴があるが、稲作専業と酪農において家族のみ 2 人が各々 50.0% をこえている。また、稲作複合において家族のみ 4 人が 45.5% の割合になっているのが特徴的である。

### (2) 主な生産作目と経営規模

対象農家の主な経営内容は表 6-2 のとおりである。経営形態別特徴としては稲作経営農家において、経営作物の種類の多種類化が目立ち、農作業の複層化が考えられる。また畑作農家が平均 30.9 ha の経営面積の経営を行っていることは、北海道の特徴的姿ではなかろうか。

### (3) 協業経営及び農作業の共同化

対象農家における農業の協業や農作業の共同化についての取り組みは、みるべきものが少ない。その中で、畑作経営においては約 44.0% の農家が農作業の共同化によって広大な経営面積における農作業の効率化に取り組んでいることがうかがえる。

表 6-2 経営形態別生産作物および家畜

	経営形態											
	稻作				畑作		野菜		酪農		果樹	
	専業	複合	戸数	面積(ha)								
水稻	15	16.8	16	10.7	0	0	14	3.3	0	0	6	0.7
野菜	0	0	2	0.1	0	0	15	1.7	0	0	3	0.8
畑作	11	5.4	10	2.7	16	30.9	0	0	4	62.3	5	2.7
果樹	0	0	2	1.6	0	0	0	0	0	0	15	5.2
その他	0	0	4	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	戸数	頭、羽数	戸数	頭、羽数	戸数	頭、羽数	戸数	頭、羽数	戸数	頭、羽数	戸数	頭、羽数
成牛	0	0	0	0	0	0	0	0	15	57.6	0	0
育成牛	0	0	0	0	0	0	0	0	15	44.6	0	0
肉用牛	0	0	0	0	1	9	0	0	1	8	0	0
豚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
綿羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鶏	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0
その他	1	2	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0

表 6-3 協同経営及び農作業の共同化の実施状況

(注)

	稻作		畑作 (%)	野菜 (%)	酪農 (%)	果樹 (%)	計 (%)
	専業	複合					
協同経営	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
農作業共同化	2	13.3%	0	0.0%	7	43.8%	3
両方	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
対象戸数	15	100.0%	16	100.0%	16	100.0%	15
							92
							100.0%

## 7 経営形態別・季節別にみた農家夫妻の生活行動と生活時間配分

### (I) 生活必需時間

本調査ではすでに述べたように、人間生活にとって必要不可欠の要素の大きい行動をもつ生活時間を、生活必需時間として分類した。表 7-1 にあるように、ほとんど全ての経営形態の夫と妻について全季節とも、1日 24 時のうち約 40~50% を占めるものであり殆んど 100% の人が行う行動といえる。

#### 1) 睡眠時間

ここでは特に健康の維持にかかすことのできない睡眠についてみることにする。

表 7-2 によって睡眠の時間量をみてみると、1 日 8 時間台を示したのは冬の畑作の夫と、野菜の夫と妻のみで、他は 6 時間と 7 時間台、また大きな差とはいえないものの、冬の稲作専業を除いて他はすべて妻の睡眠時間が夫より短い。また酪農の夫と妻の時間が四季を通して殆んど変化がみられないことも特徴の一つである。

### 2) 起床時刻・就寝時刻

以上は 3 日を平均した睡眠時間についてみたが、一日 24 時間の中で夫と妻が何時に起床して一日の行動を始め、何時に寝就して一日の終りを迎えてるのであろうか。その時刻の姿を 30 分ごとに、起きた人、寝た人の率(行為者率)のヒストグラムによつて夫妻別、経営形態別、季節別にみてみよう。

#### ① 起床時刻

図 7-1-1 から 7-1-48 は、経営形態別、季節別の夫と妻の 30 分ごとの起床時刻である。

##### a) 夫の起床時刻

###### 〈稲作専業〉

この経営の夫の特徴は、多少の相異はあるものの、春と冬、夏と秋のヒストグラムの形状がよく類似していることである。春は 6 時から 6 時 30 分までに 43.8% の夫が起床し、5 時未満は 0 % となっている。冬は 6 時から 7 時以降の時刻で占められ、6 時未満は 0 % という春と同様の片寄りをみせている。これは妻の春・冬には見られない姿である。

表7-1 農家夫妻の1日(24時間)あたりの生活時間構造 (全体平均)

経営形態	生活時間分類	春		夏		秋		冬	
		夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
稲作専業	必需	39.0%	36.8%	41.2%	38.1%	41.3%	40.2%	39.0%	41.9%
	収入労働	55.9%	48.8%	44.5%	33.9%	47.1%	41.7%	44.3%	8.6%
	家事・育児	0.0%	8.4%	0.3%	12.8%	0.1%	9.5%	1.3%	19.0%
	社会的・文化的	3.8%	3.4%	12.3%	8.4%	6.0%	5.4%	15.5%	22.3%
	不明	1.4%	2.6%	1.7%	6.7%	0.6%	3.1%	0.0%	8.1%
稲作複合	必需	40.1%	42.0%	46.2%	45.0%	40.4%	42.1%	50.2%	46.9%
	収入労働	51.7%	44.4%	40.3%	33.7%	52.8%	44.9%	33.1%	19.8%
	家事・育児	0.0%	7.6%	0.6%	12.2%	0.0%	9.8%	1.5%	21.0%
	社会的・文化的	2.9%	3.8%	11.1%	8.8%	2.3%	3.2%	7.4%	12.2%
	不明	5.3%	2.2%	1.7%	0.3%	0.5%	0.0%	7.7%	0.0%
畑作	必需	41.7%	40.6%	39.0%	36.8%	39.7%	39.9%	45.6%	43.3%
	収入労働	30.1%	25.7%	44.3%	35.1%	44.7%	38.0%	17.2%	6.7%
	家事・育児	2.2%	14.8%	0.1%	14.1%	0.8%	10.1%	1.1%	21.5%
	社会的・文化的	17.6%	15.1%	13.9%	11.2%	9.5%	9.0%	30.5%	23.8%
	不明	8.5%	3.8%	2.7%	2.8%	5.3%	3.1%	5.6%	4.8%
野菜	必需	44.2%	40.1%	44.8%	40.3%	45.7%	42.3%	53.3%	48.0%
	収入労働	46.2%	36.8%	47.3%	35.6%	48.1%	38.7%	20.8%	13.2%
	家事・育児	0.5%	16.9%	0.3%	15.3%	0.4%	14.0%	4.2%	18.3%
	社会的・文化的	8.5%	6.2%	7.6%	8.9%	5.8%	5.1%	21.6%	20.6%
	不明	0.6%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
酪農	必需	44.7%	42.2%	41.7%	40.3%	43.8%	42.1%	47.8%	43.2%
	収入労働	44.8%	34.4%	49.9%	37.1%	47.8%	36.0%	39.7%	29.9%
	家事・育児	0.3%	14.4%	0.3%	15.6%	0.3%	12.4%	2.0%	14.9%
	社会的・文化的	10.2%	9.0%	8.1%	7.0%	8.1%	9.5%	10.5%	12.0%
	不明	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
果樹	必需	45.8%	40.3%	44.2%	42.4%	47.4%	43.6%	48.1%	50.5%
	収入労働	42.2%	29.9%	44.4%	37.0%	44.9%	34.5%	26.4%	12.2%
	家事・育児	1.3%	17.8%	0.2%	13.4%	0.3%	14.5%	2.7%	21.1%
	社会的・文化的	10.6%	8.1%	10.8%	7.2%	7.3%	7.4%	22.7%	16.0%
	不明	0.2%	4.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%

表7-2 夫と妻の睡眠時間 (時間: 分)

	春		夏		秋		冬	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
稲作専業	6:50	6:31	7:12	6:42	7:40	7:07	7:11	7:26
稲作複合	6:45	6:38	7:19	6:58	7:15	7:03	7:58	7:28
畑作	7:49	7:23	7:07	6:37	7:09	6:47	8:19	7:48
野菜	7:07	6:38	7:01	6:35	7:31	7:22	8:34	8:08
酪農	6:50	6:41	6:48	6:32	6:49	6:47	6:54	6:42
果樹	7:23	7:12	7:12	6:53	7:47	7:22	7:57	7:38

## &lt;稲作複合&gt;

この経営では、夏・冬に僅かではあるが3時台に起床者がいることが特徴である。

また、冬の起床時刻が、6時30分から7時までが45.8%、7時以降が37.5%で、この2つの時間帯で、83.3%の夫達が起床しているという、四季を通して最も特徴的な朝寝タイプを示している。

## &lt;畑作&gt;

この経営の特徴としては、夏と冬に特徴が伺える起床のタイプである。

夏には少数であるが、3時未満と3時から3時30分に起床者がある。冬は7時以降が66.8%の行為者

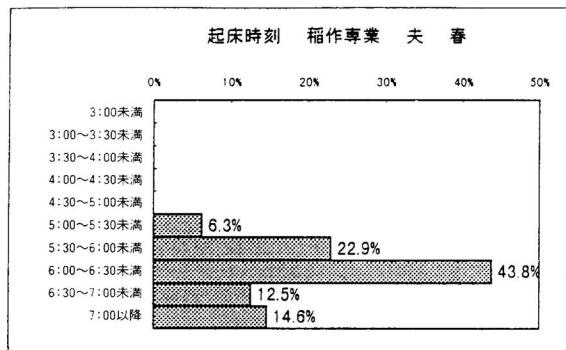


図 7-1-1

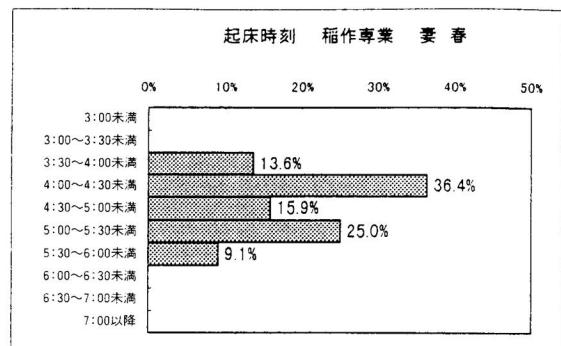


図 7-1-5

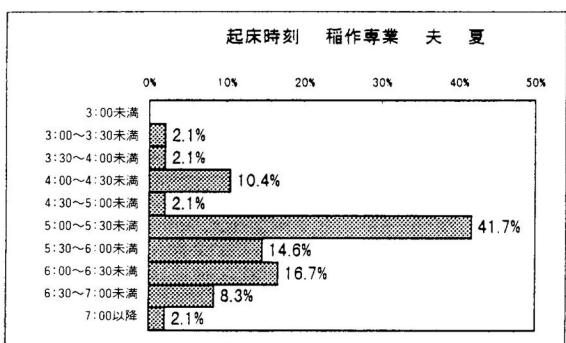


図 7-1-2

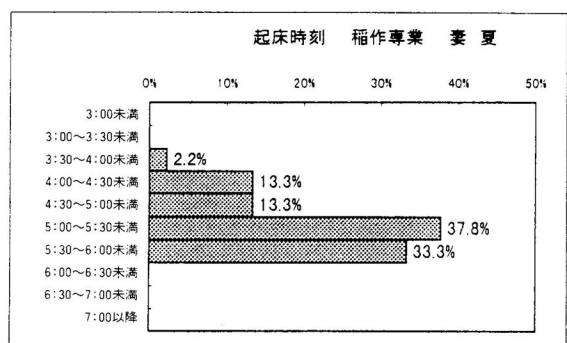


図 7-1-6

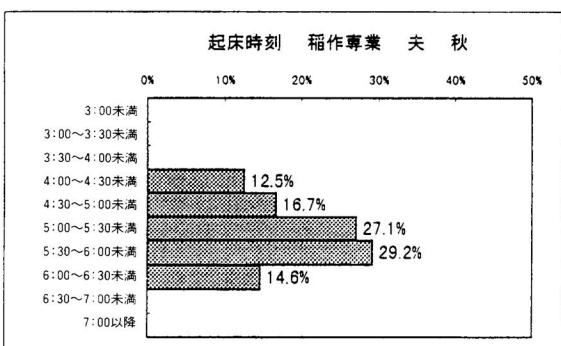


図 7-1-3

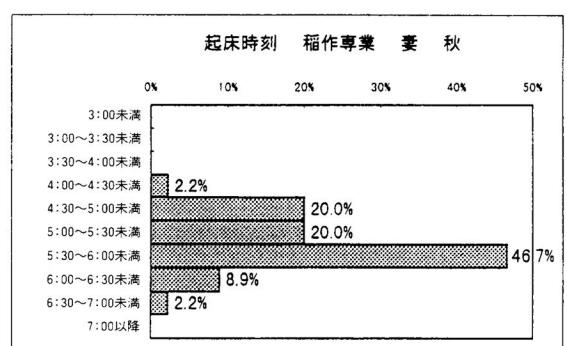


図 7-1-7

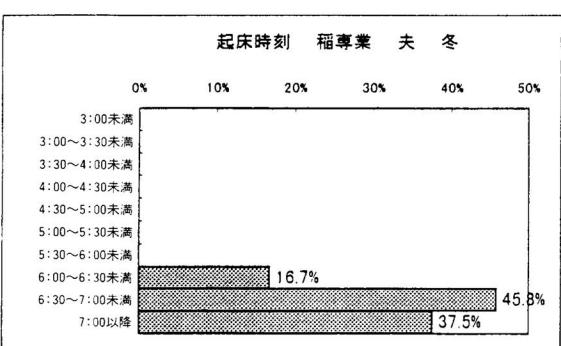


図 7-1-4

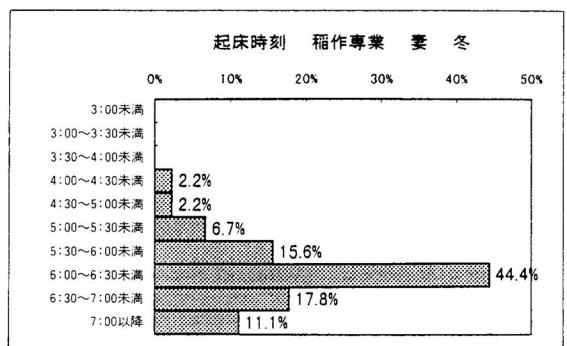


図 7-1-8

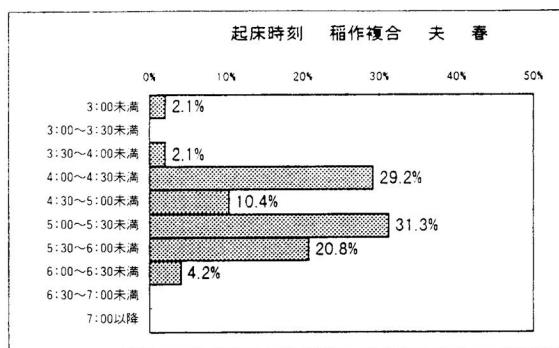


図 7-1-9

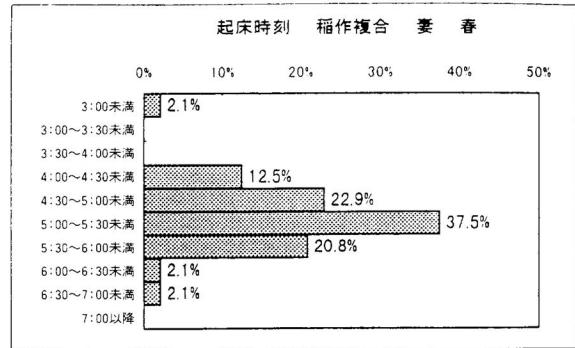


図 7-1-13

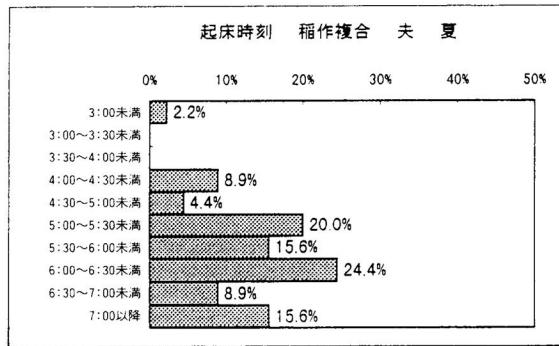


図 7-1-10

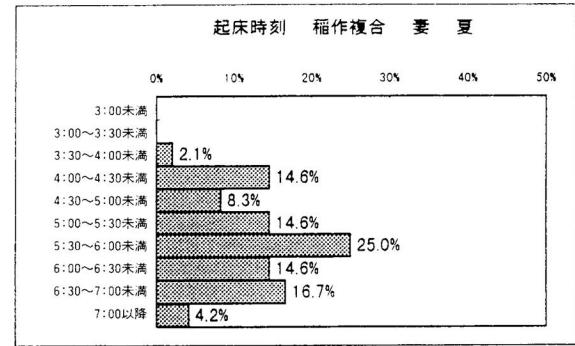


図 7-1-14

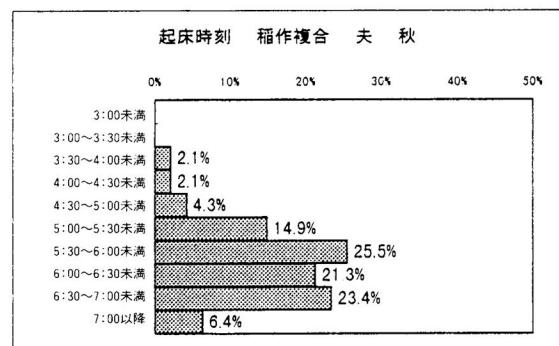


図 7-1-11

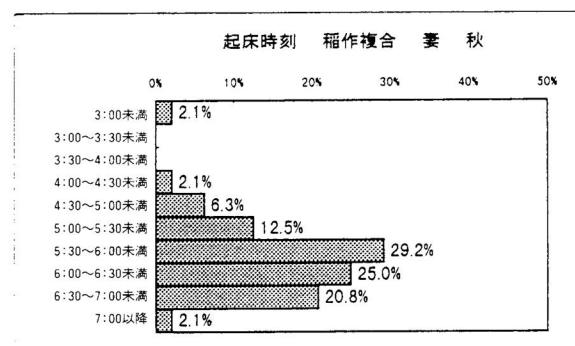


図 7-1-15

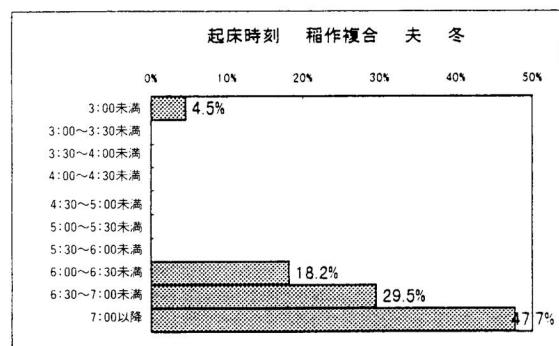


図 7-1-12

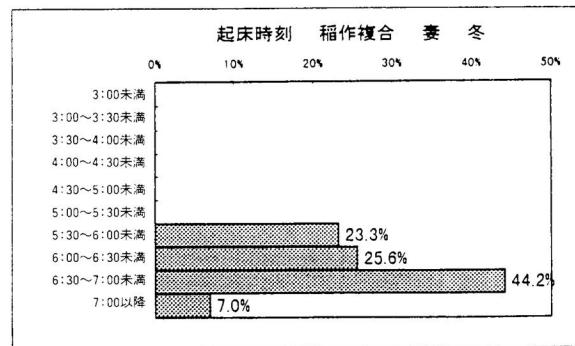


図 7-1-16

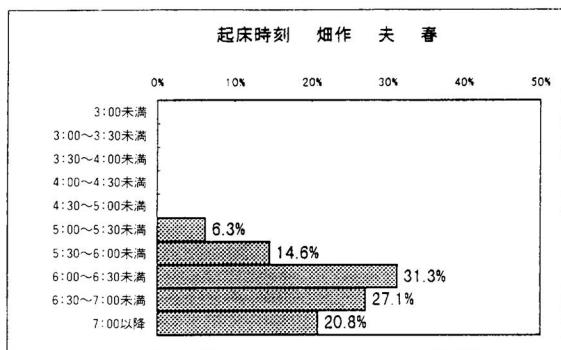


図 7-1-17

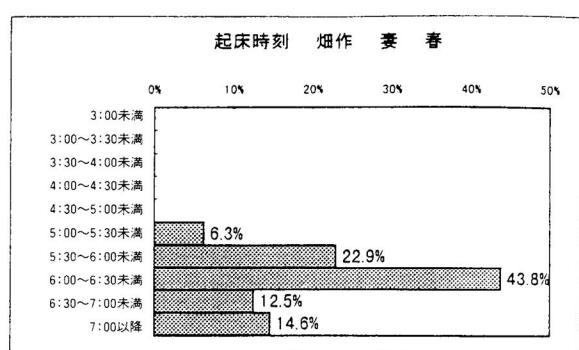


図 7-1-21

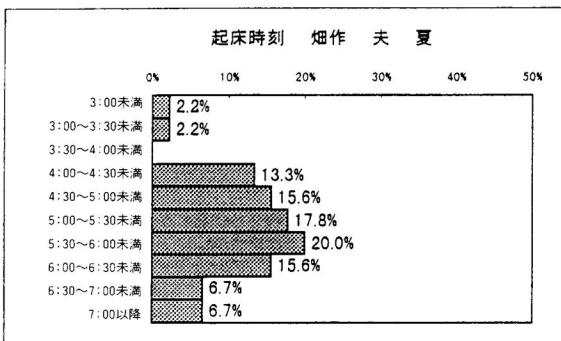


図 7-1-18

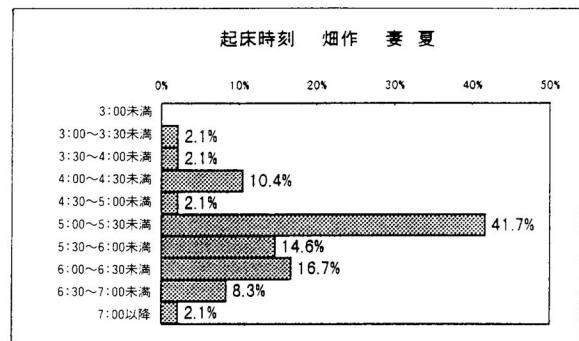


図 7-1-22

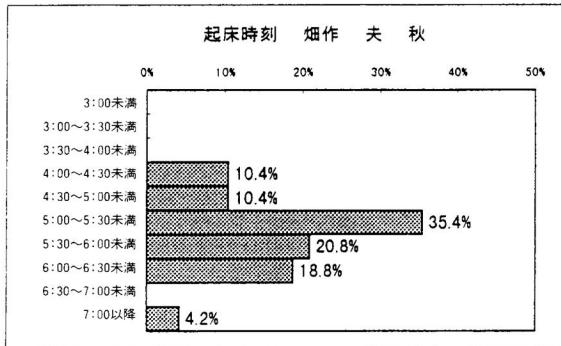


図 7-1-19

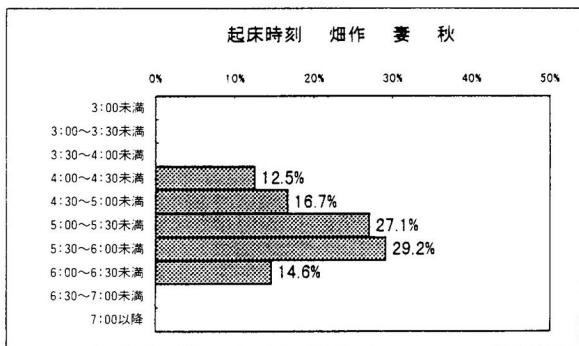


図 7-1-23

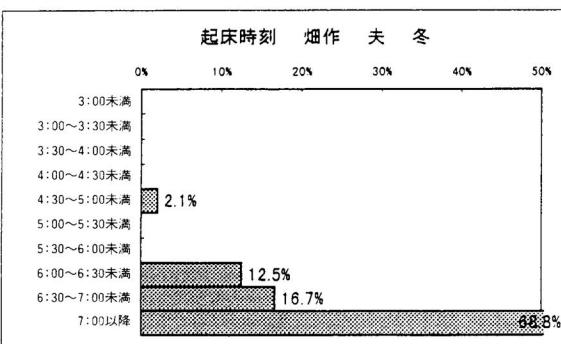


図 7-1-20

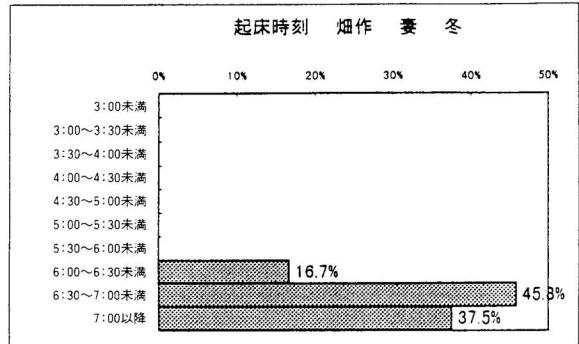


図 7-1-24

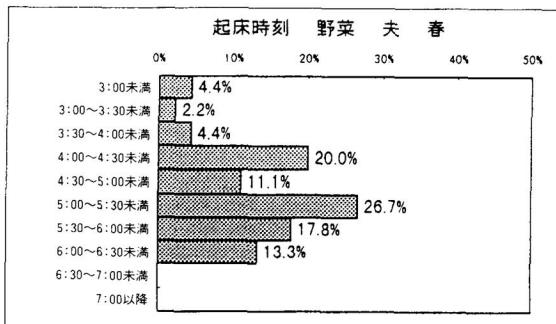


図 7-1-25

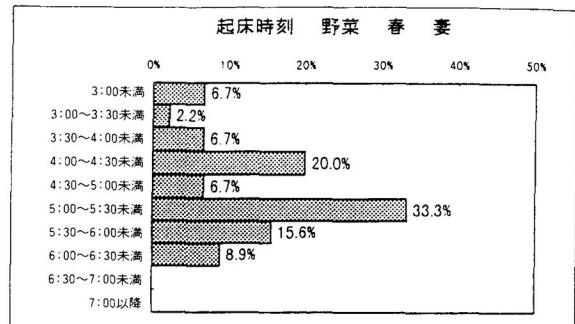


図 7-1-29

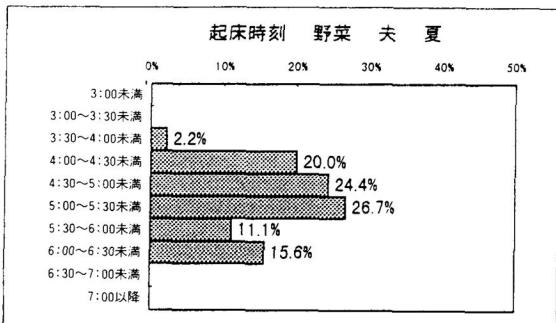


図 7-1-26

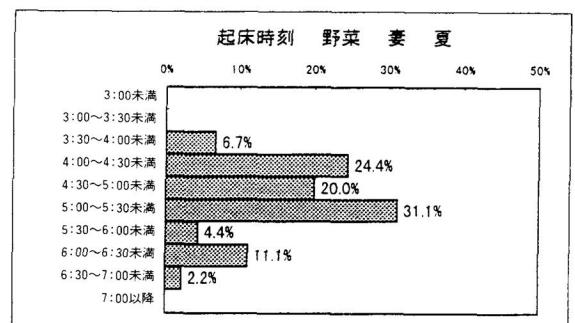


図 7-1-30

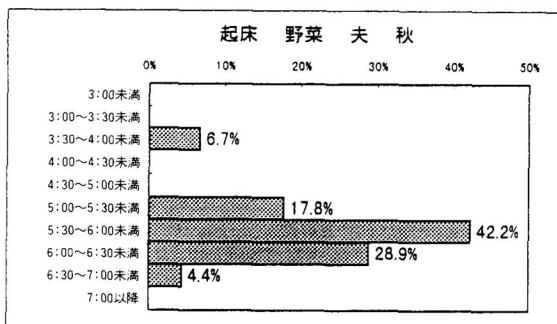


図 7-1-27

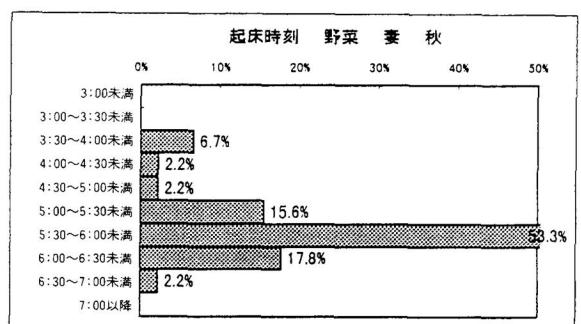


図 7-1-31

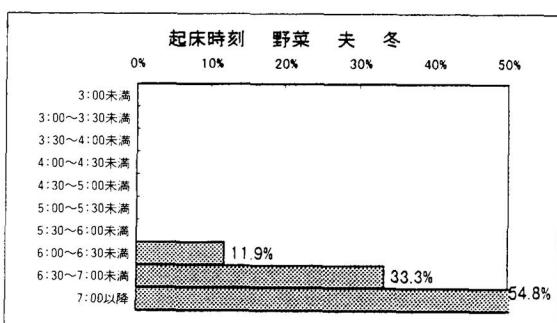


図 7-1-28

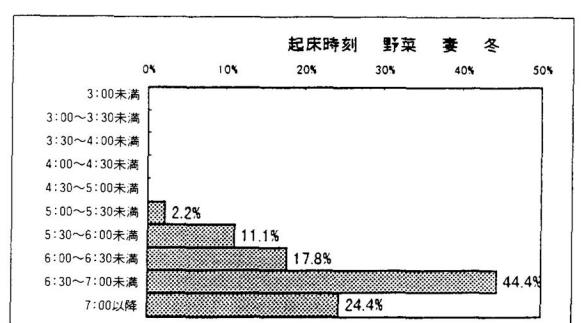


図 7-1-32

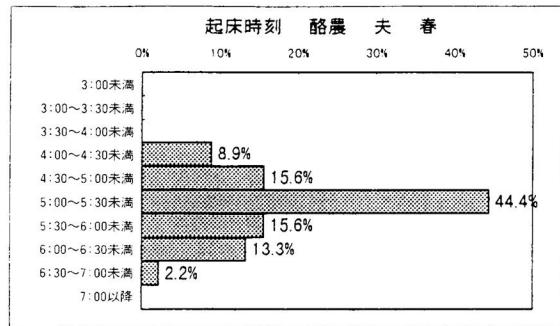


図 7-1-33

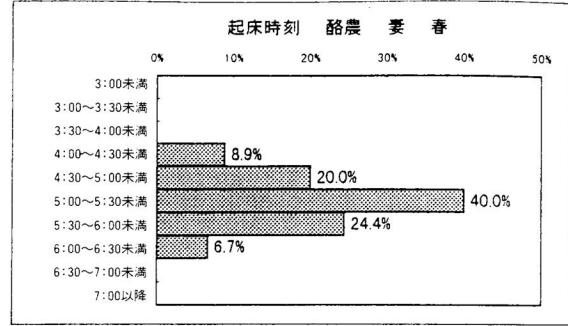


図 7-1-37

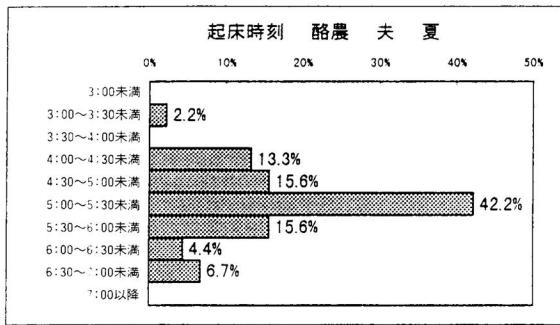


図 7-1-34

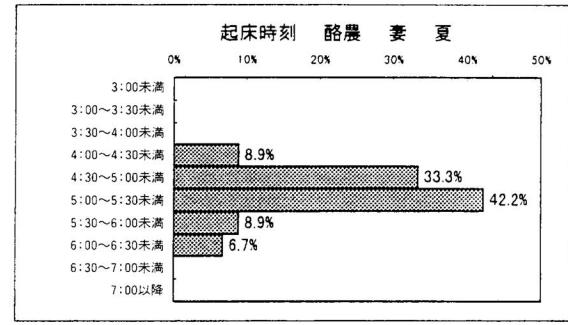


図 7-1-38

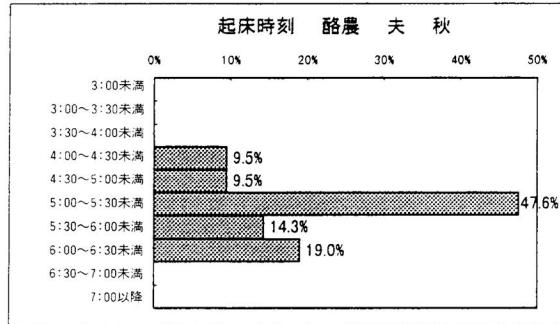


図 7-1-35

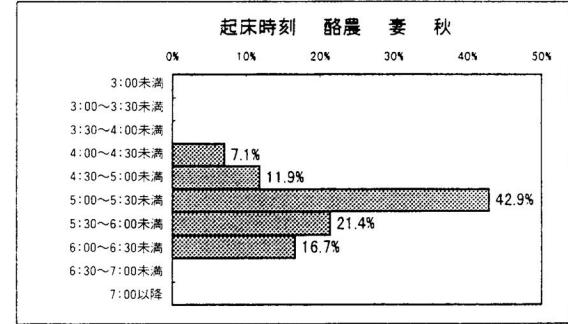


図 7-1-39

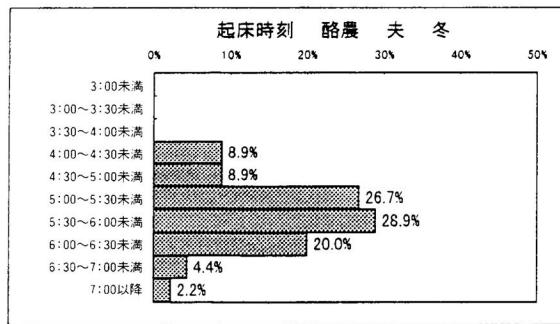


図 7-1-36

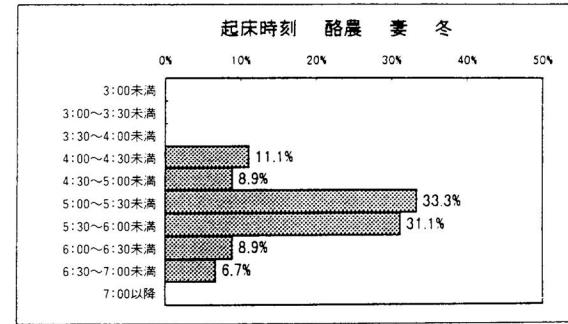


図 7-1-40

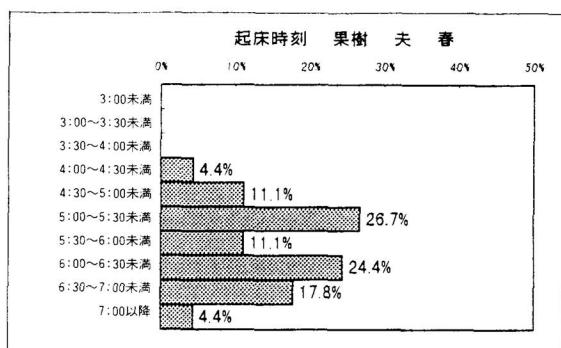


図 7-1-41

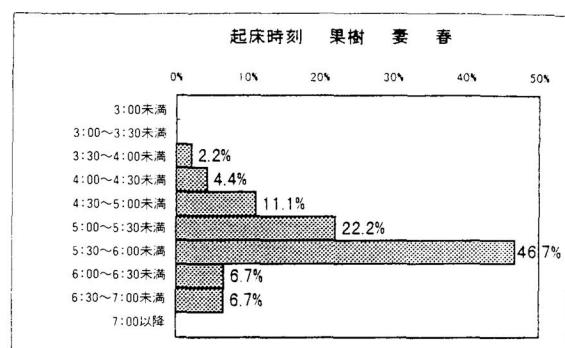


図 7-1-45

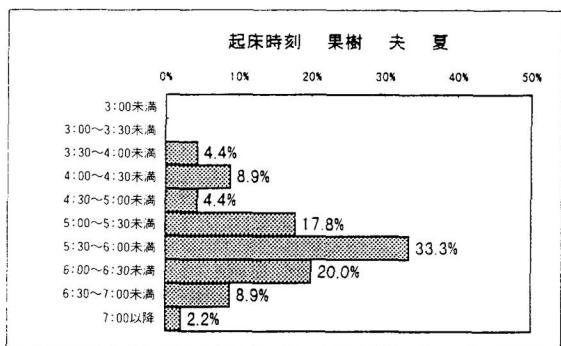


図 7-1-42

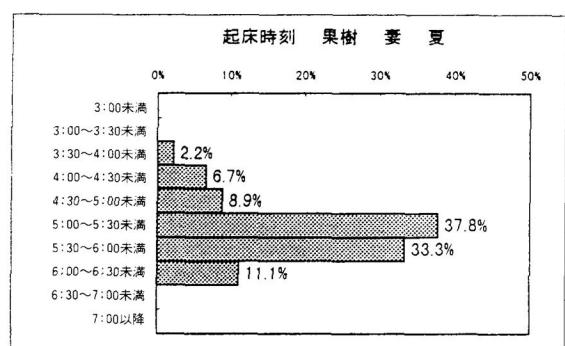


図 7-1-46

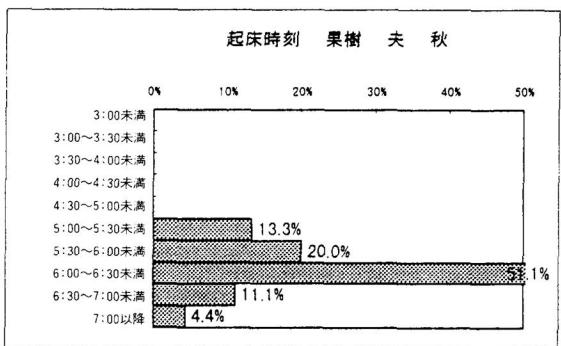


図 7-1-43

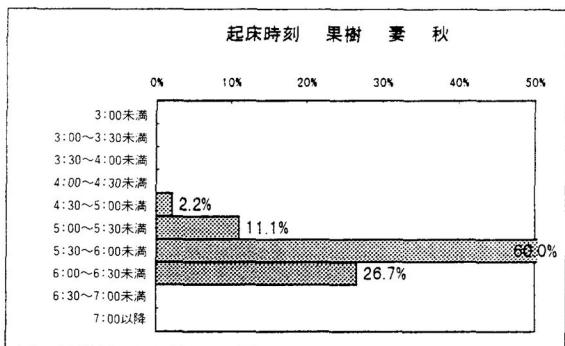


図 7-1-47

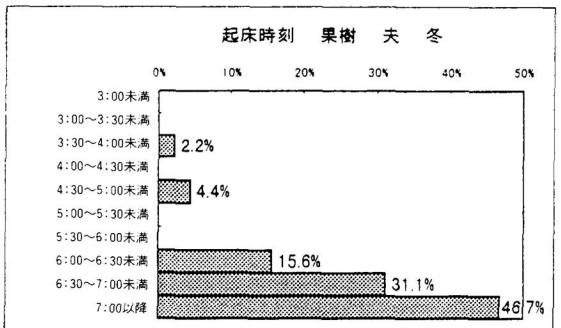


図 7-1-44

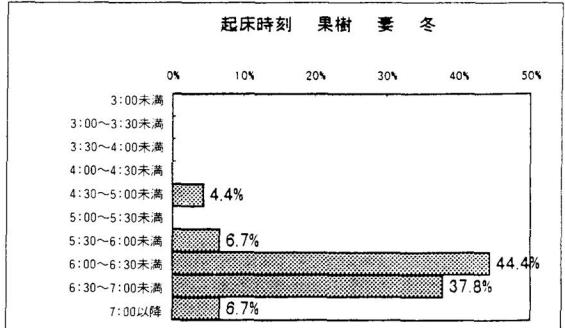


図 7-1-48

率を示している。これは全経営中、最も高い割合である。

#### 〈野菜〉

この経営では、春と冬の起床時刻に大きな特徴を示している。春については3時未満からの起床者があり、4時までは11.1%の夫達が起床している。全経営中最も早起のタイプである。これに対し冬には7時以降が54.8%という朝寝タイプを示している。

#### 〈酪農〉

酪農の夫たちの起床時刻の特徴としては春、夏、秋、3シーズンのヒストグラムの形状がよく類似している点である。その中でも3シーズン共、5時から5時30分に各々40%台の起床者が集中している点が特徴である。

冬は、この山が低くなった分、起床時刻に拡がりがみえるものの、起床は4時から始まっている。家畜を飼育する酪農家の経営構造と、冬期積雪をみる北海道の気候の影響を大きく示す夫たちの起床スタイルである。

#### 〈果樹〉

全シーズンを通して起床時刻のヒストグラムの形態をみると、春と夏に早朝起床のスタイルが伺える。秋になってそのスタイルが急激に変化し、5時未満の起床者は0%となると共に、6時から6時30分が、51.1%と5割にもなっている。冬に僅かではあるが3時台と4時台の起床者がある。

以上の姿から、春、夏の農作業の忙しさを伺うことができる。

#### b) 妻の起床時刻

次に妻の起床時刻を経営形態別に夫との比較によってみる。

#### 〈稲作専業〉

この経営では、四季をとおしてヒストグラムの形状が類似しており、冬においても起床時刻は4時台から始まっている。この姿は、冬には6時台から始まる夫の起床時刻と大きく異なっている。この特徴から冬、妻が何らから作業に従事していることが伺える。

#### 〈稲作複合〉

この経営では、春の起床率が夫と同じく5時から5時30分未満に集中して37.5%の人々が起床している。この割合は四季を通じて最も高い。春に最も早い3時未満の起床者2.1%を加え5時30分未満迄の間に75.0%の人が起床している。同じくこの時刻までに夫の75.1%が起床し、田植作業の準備や圃場の仕事が始まっており、妻達の農作業も夫達と共に

に開始される。

続いて夏の起床者の最も多い時間帯は5時30分から6時未満で25.0%となっている。この時期の特徴としては3時30分～4時未満の起床者がおりこの時刻から6時未満迄に64.6%の妻達が起床して農作業に取り組んでいる。秋は思いの他起床時刻が遅い。四季を通して稻作複合経営の妻達の起床時刻は、夫と同じ様に農作業の繁閑と大きく関連している。

#### 〈畑作〉

特徴としては春のシーズンには5時30分から6時30分未満までに66.7%が起床している。夫は同じ時刻に45.9%の割合を示し、夫の方がゆっくりタイプと言えよう。しかし夏の夫は早起て、約30.0%の夫達は4時台に起床、これに対しこの時間帯に起床している妻は、12.5%，妻たちの56.3%，5割強は5時台に起床している。収穫の秋については、夫も妻も4時から始まる起床時刻の各時間において、妻が僅かずつ低い割合を示しながらも、夫と同じ傾向で起床していることがわかる。

畑作の冬の夫は、7時以降の起床者が68.8%もあり極めて朝寝坊である。

#### 〈野菜〉

野菜の妻の起床時刻は、夫と同様に農繁・平常の春・夏・秋の3シーズンと農閑期の冬季との著しい変化が特徴である。夫と妻の起床時刻の行為者割合は各シーズン共、類似の傾向を示し、特に春は、夫も妻も朝3時未満から起床し、6時未満の起床まで著しい階層分化をみせている。春から秋へかけての夫と妻の早起スタイルがこの経営の特徴といえよう。

#### 〈酪農〉

酪農の妻たちの起床時刻について、他の経営形態と比較して異なる大きな特徴は4シーズンを通して、ヒストグラムの形状が殆ど変わらないことである。このことは夫の場合と同様である。家畜を飼育する酪農家には、夏も冬も変化のない作業があることを、妻たちの起床時刻の構造から把握することができる。

#### 〈果樹〉

夫と妻の時刻階層別行為者割合は、4シーズンとも類似の姿になっているものの、妻の春における5時30分～6時未満の46.7%同じく秋における同時刻の60.0%が突出しているが、その理由については、ここでは明らかではない。

#### ② 就寝時刻

図7-2-1から7-2-48は経営形態別、季節別の

夫と妻の30分ごとの就寝時刻である。

#### a) 夫の就寝時刻

##### 〈稲作専業〉

特徴としては、春は21時30分～22時00分未満と夏は22時～22時30分未満に就寝率が集中していることである。春のこの時刻には46.7%、夏のこの時刻には31.3%の夫が就寝している。秋には22時～22時30分台に行行為者割合22.2%の山があるものの、前後の時刻との行為者率と比較してみると大きな差はなく構成されている。また、春夏秋のシーズンには、割合は少ないものの20時から就寝が始まり0時までの山がある。しかし冬期においては、他の3シーズンとは全く異なる就寝状態をみせ、20時から22時30分までの30分毎の行為者割合が各々4.8%と同一であり、22時30分から23時の14.3%からその後は0時以降まで20%台が続くという宵張りの夫が多い。まとめてみると春は21時30分から22時、夏は22時～22時30分、秋は20時から0時までに就寝し、冬は早寝と宵張りというタイプとなっている。

##### 〈稲作複合〉

春は22時から始まり0時に終る就寝時刻の間に21時30分～22時が22.9%、22時から22時30分の間に27.1%、23時から23時30分の間に22.9%の山をみせながら分散をみせている。夏は2.3%の21時から21時30分台があるものの21時30分から0時以上まで10%台の行為者率が続くタイプ。冬は21時前の就寝者が一人もおらず、88%の人が22時以降に就寝し0時以降が9.1%いる。ここでも宵張りの遅寝タイプが多い。これも農閑期の特徴と言えよう。

##### 〈畑作〉

畑作の特徴は一目でみてわかる様に夏に突出する22時～22時30分の45.5%の就寝率である。また、夏と冬に20時未満、と20時台に僅かながら就寝者がいるものどちらかというと遅寝のタイプといえそうである。

##### 〈野菜〉

全体として早寝タイプといえそうである。特に春と夏及び秋についてその傾向が現れており、農作業との関係が伺える。

##### 〈酪農〉

全シーズンをとおして22時以降の就寝割合をみると、春が73.4%、夏66.6%、秋78.5%、冬88.8%となり冬が最も遅寝で次が秋。夏が最も早寝で次が春の順になっている。

##### 〈果樹〉

冬期を除いて10時～10時30分と11時～11時

30分に就寝者の割合が高くなっている。4シーズン中冬期は10時以降の就寝者が86.3%となり遅寝宵張りがめだって増加している。

#### b) 妻の就寝時刻

##### 〈稲作専業〉

春、夏共に22時～22時30分に37.8%と40.0%の妻たちが就寝している。夫との比較でみると、春の行為者割合の山が1時間遅く現れている。また冬の就寝の姿の23時～23時30分に行行為者率の山があるのは夫と同様であるが全体的には岡でみると就寝構造は夫と妻で異なっている。

##### 〈稲作複合〉

この経営では、夫と妻の就寝スタイルが総体的に異なっていることがわかる。妻は総じて遅寝である。特に春は0時以降起きている妻が12.5%いること、シーズン全体を通して0時以降の就寝者がいることが特徴である。

##### 〈畑作〉

全シーズンを通して遅寝といえる。

##### 〈野菜〉

夏の22時～22時30分に42.2%の妻が就寝している姿が全体を通して特徴的である。

他は、夫と類似した傾向を示している。冬の0時以上が15.6%であることは夫を上回って特徴のある姿といえる。

##### 〈酪農〉

全シーズンを通して冬の約50.0%が23時～23時30分に就寝していることが特徴である。

夫はこの時刻には24.4%の割合であり、妻の方が早い就寝時刻となっている。

##### 〈果樹〉

春の22時～22時30分の35.6%の就寝割合が夫と大きく異なる以外は、全シーズンを通して夫と類似した姿となっている。

以上が調査対象者の、時刻でみた1日の生活行動の始まりと終わりであるが、経営形態及び季節が、夫と妻各々の特徴の要因になっていることがわかる。

## (2) 収入労働時間

本調査では、農作業、農業用事務、農外雇用労働を含めて収入労働に要する生活時間を、収入労働時間として分類した。

### 1) 農作業

収入労働のうちの農作業は、夫と妻共々に睡眠について行為者率の高い生活行動である。

表7-3によって農作業時間の夫、妻各々の平均を

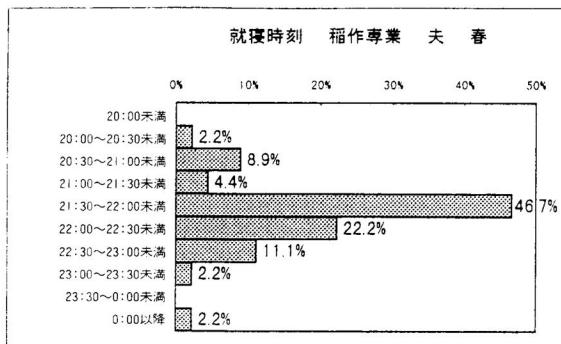


図 7-2-1

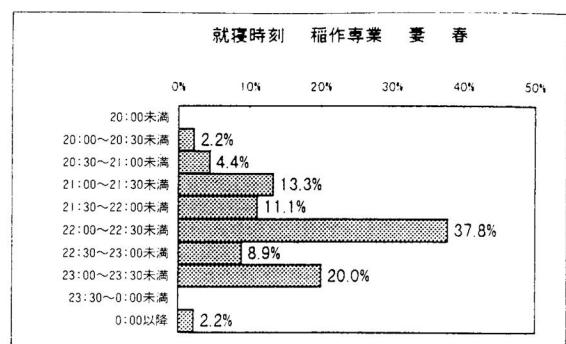


図 7-2-5

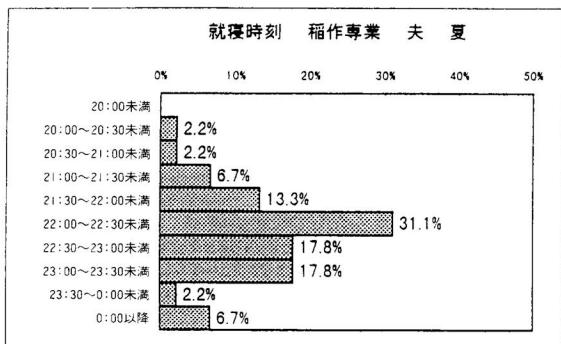


図 7-2-2

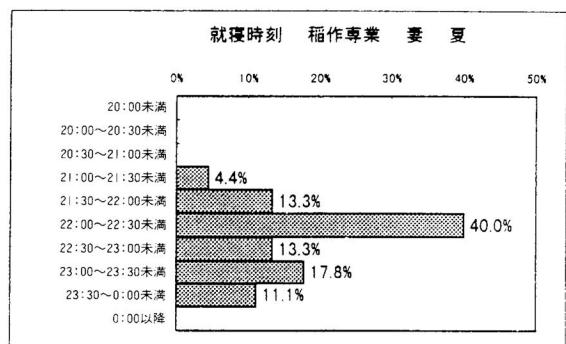


図 7-2-6

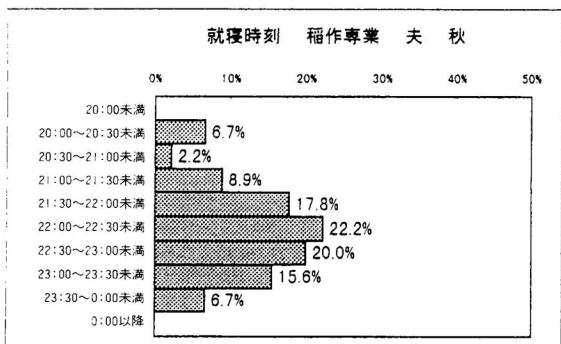


図 7-2-3

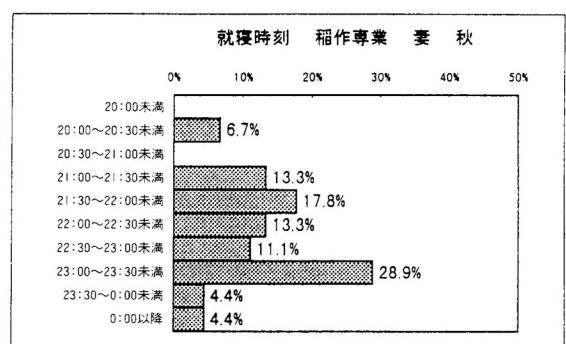


図 7-2-7

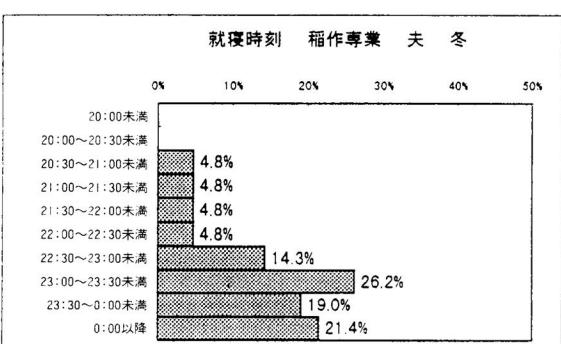


図 7-2-4

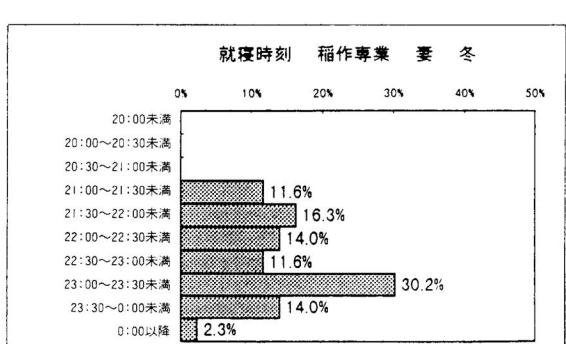


図 7-2-8

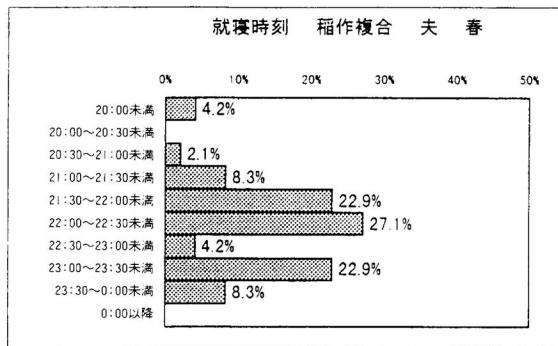


図 7-2-9

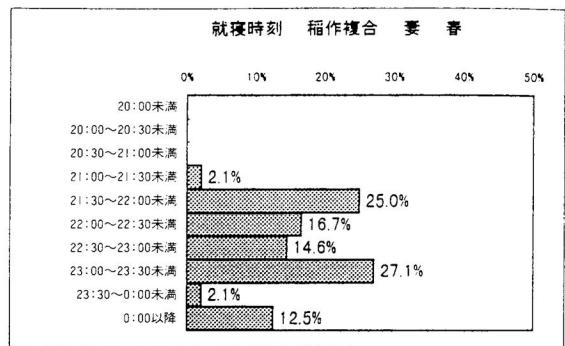


図 7-2-13

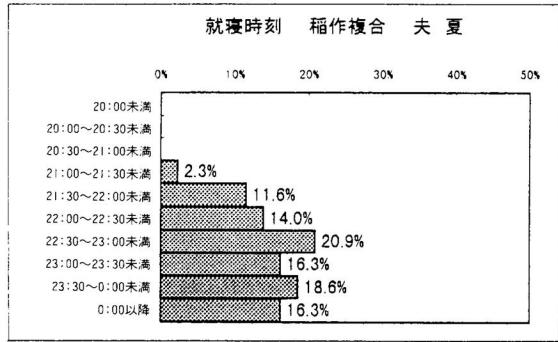


図 7-2-10

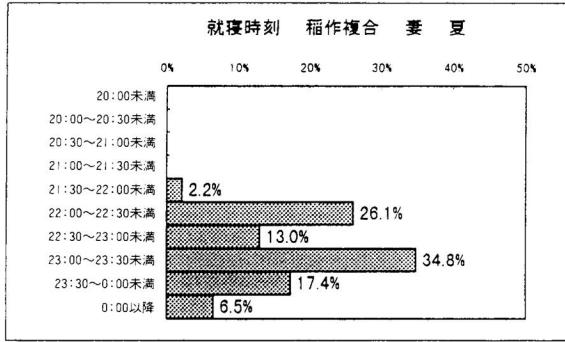


図 7-2-14

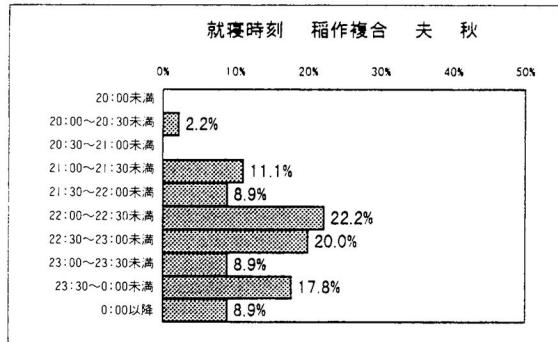


図 7-2-11

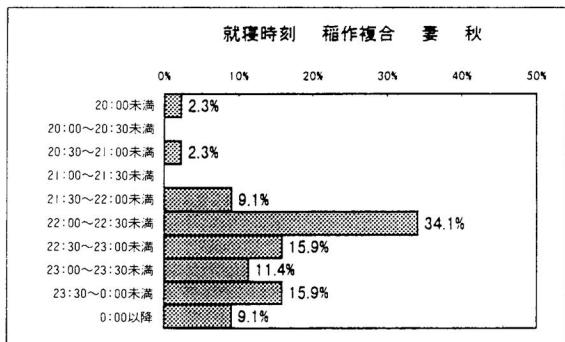


図 7-2-15

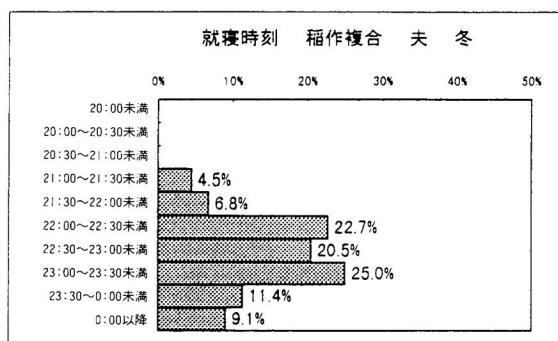


図 7-2-12

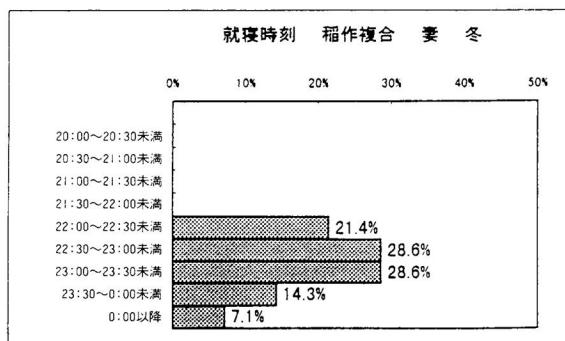


図 7-2-16

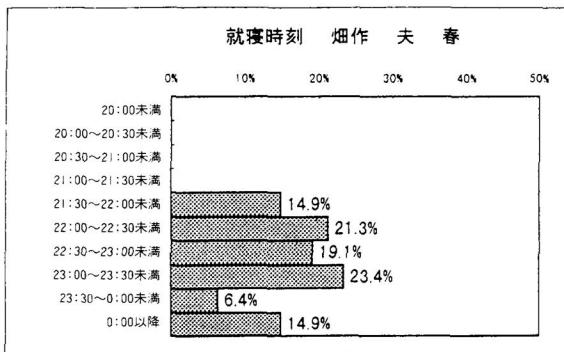


図 7-2-17

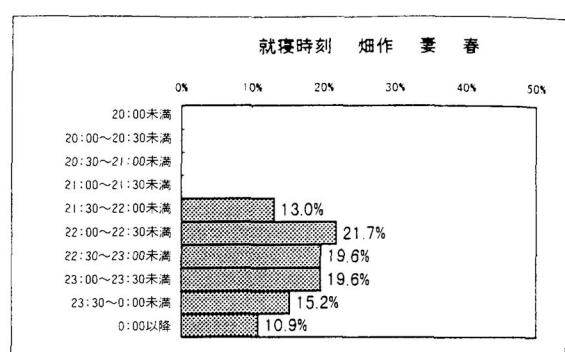


図 7-2-21

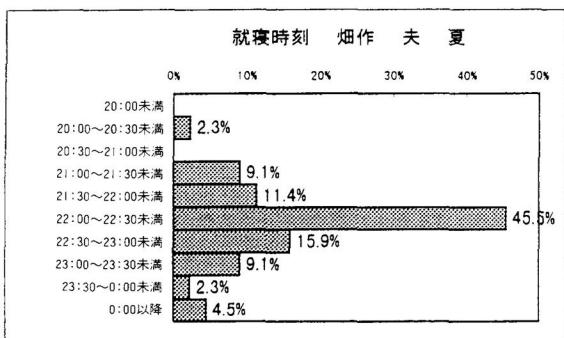


図 7-2-18

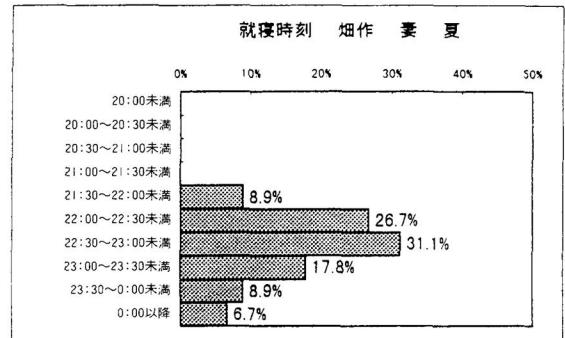


図 7-2-22

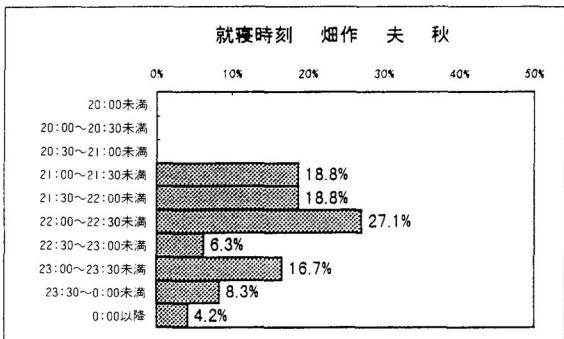


図 7-2-19

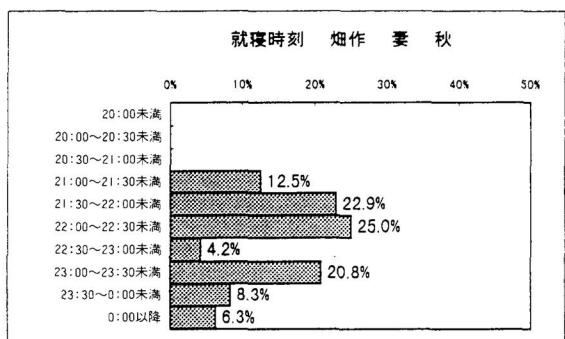


図 7-2-23

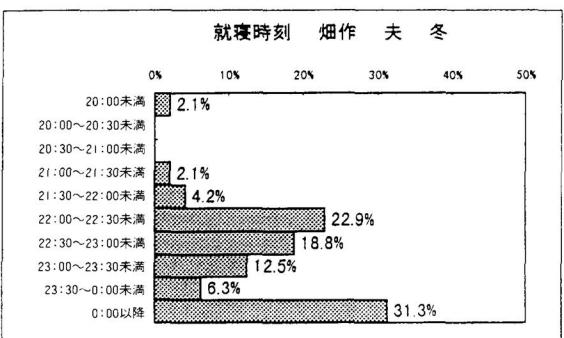


図 7-2-20

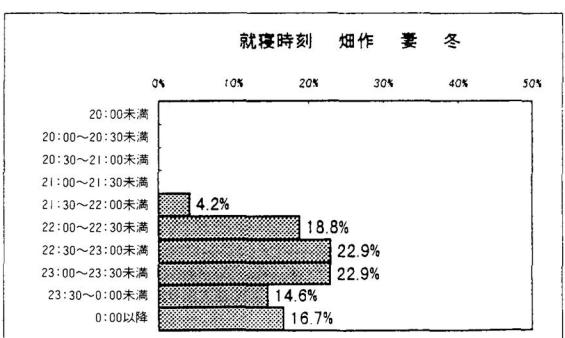


図 7-2-24

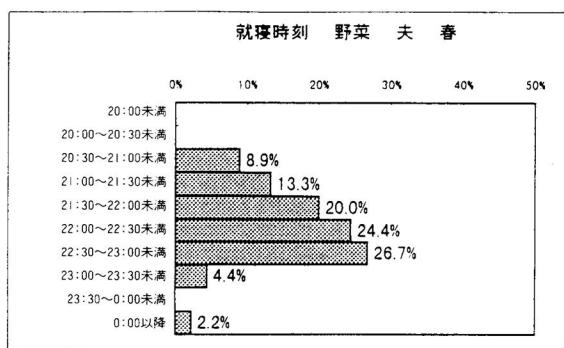


図 7-2-25

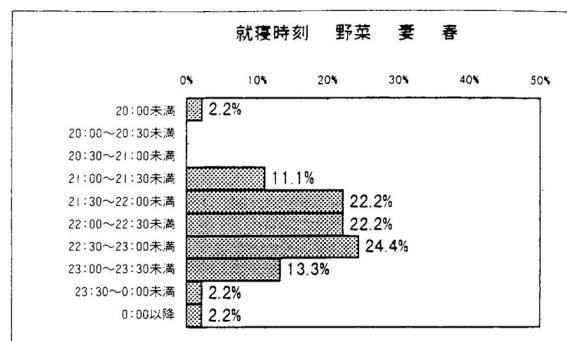


図 7-2-29

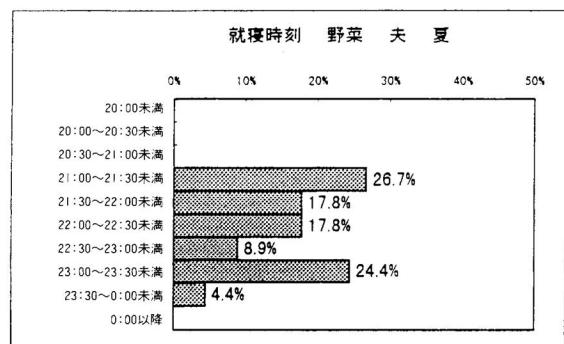


図 7-2-26

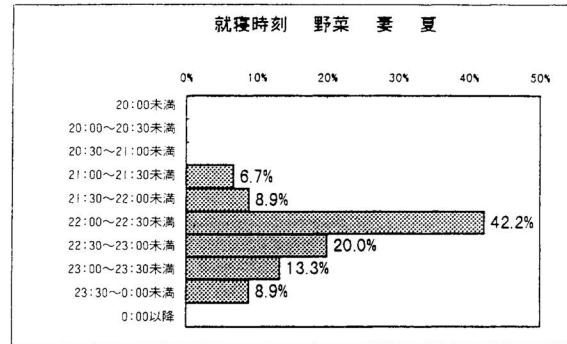


図 7-2-30

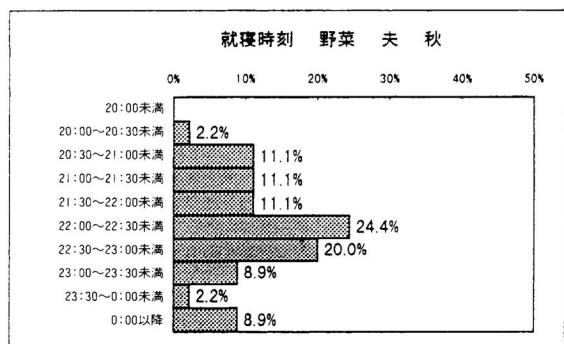


図 7-2-27

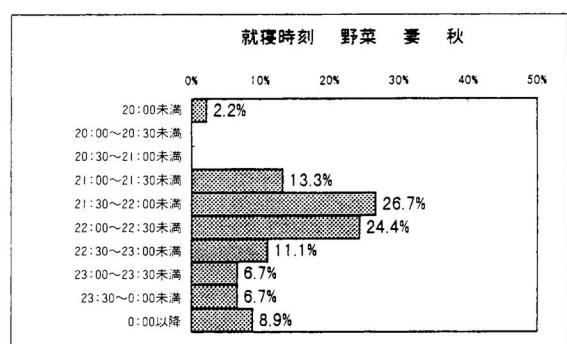


図 7-2-30

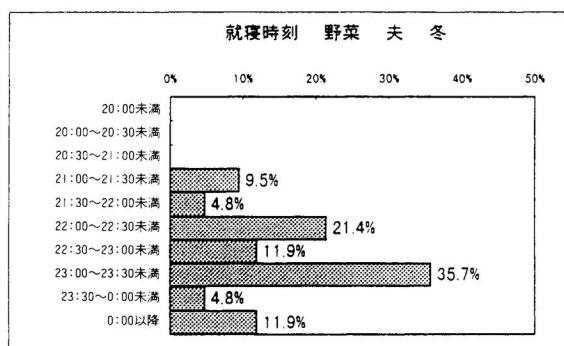


図 7-2-28

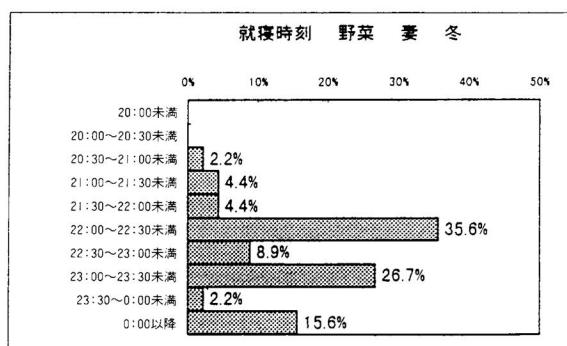


図 7-2-32

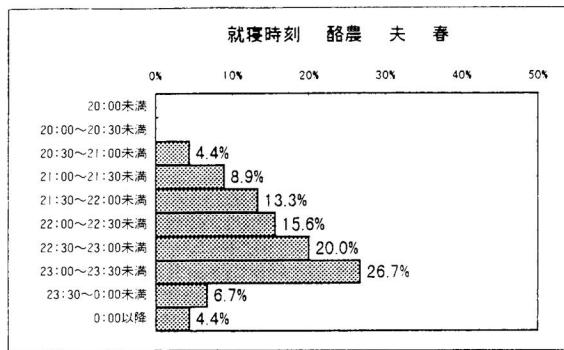


図 7-2-33

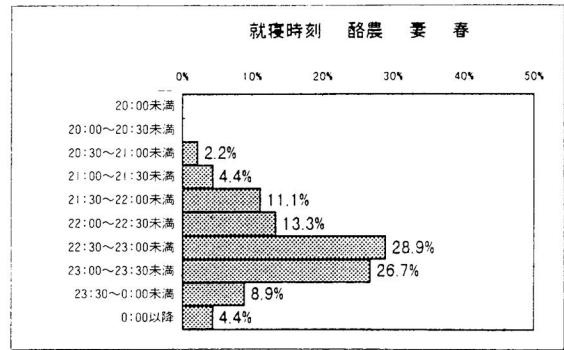


図 7-2-37

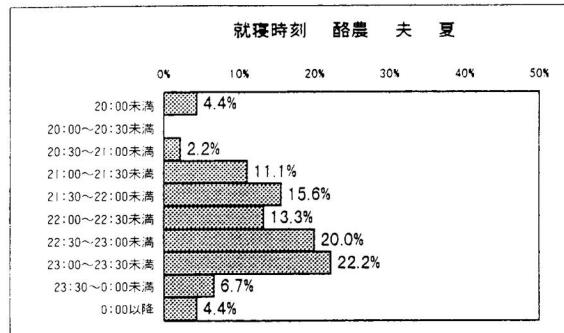


図 7-2-34

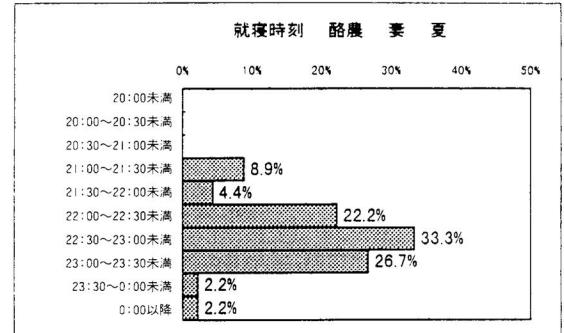


図 7-2-38

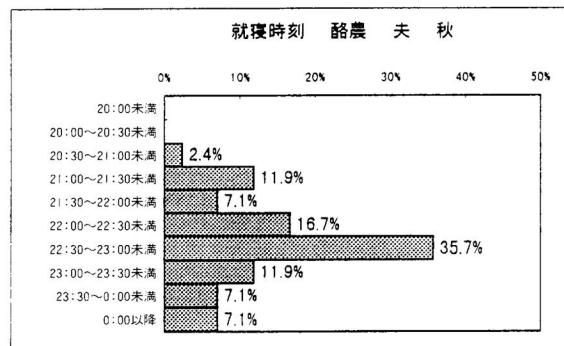


図 7-2-35

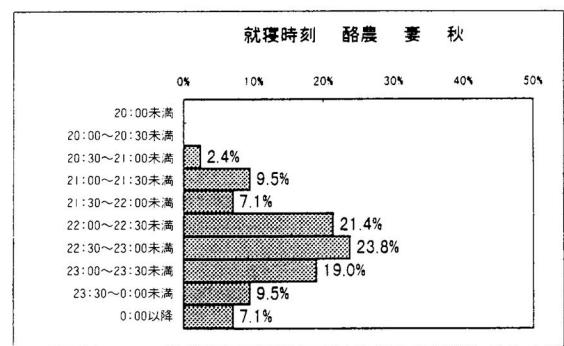


図 7-2-39

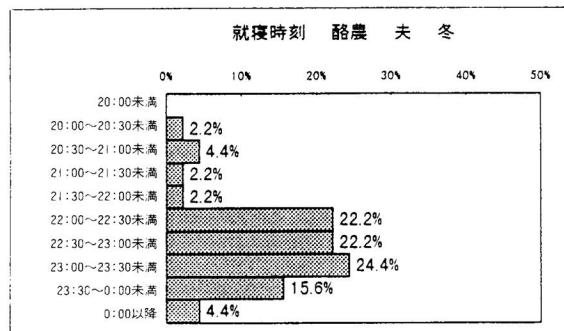


図 7-2-36

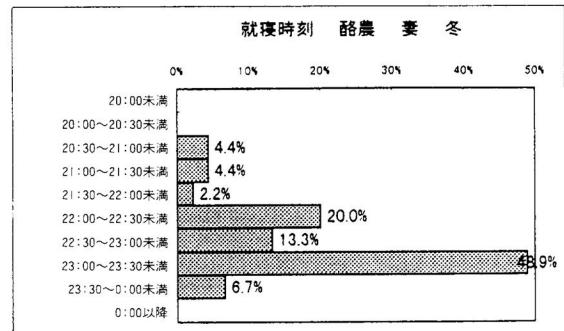


図 7-2-40

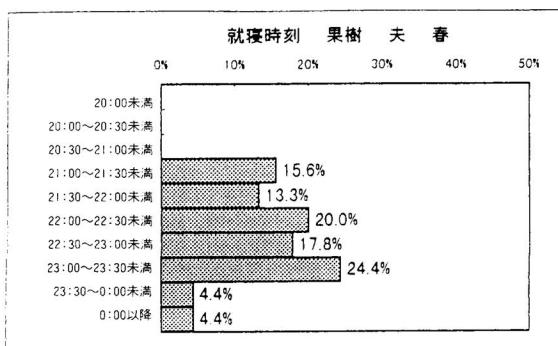


図 7-2-41

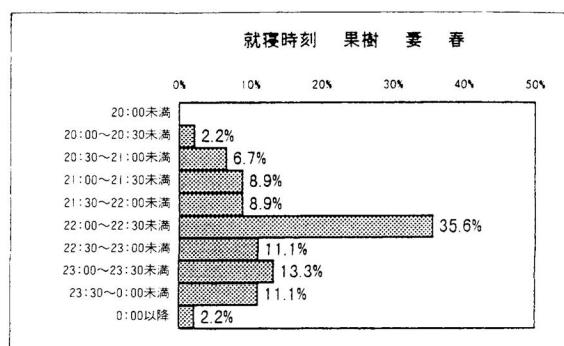


図 7-2-45

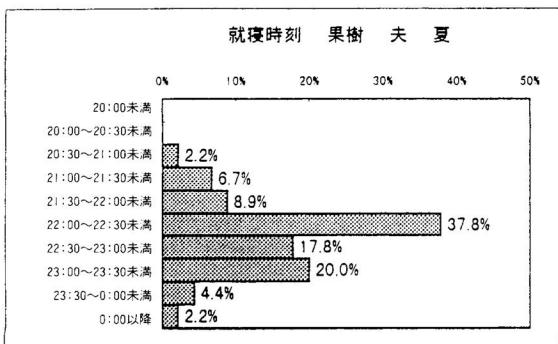


図 7-2-42

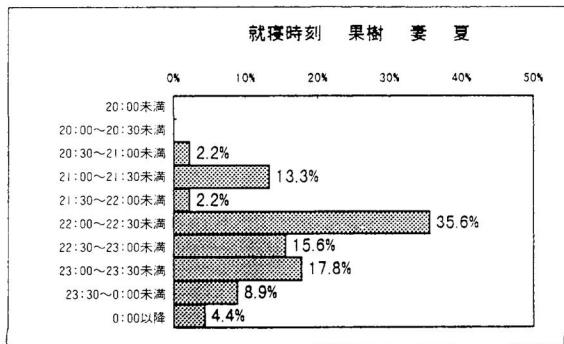


図 7-2-46

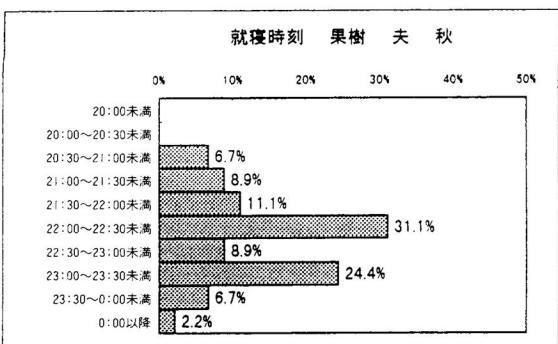


図 7-2-43

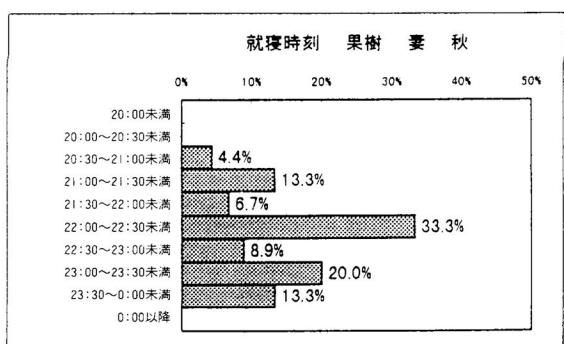


図 7-2-47

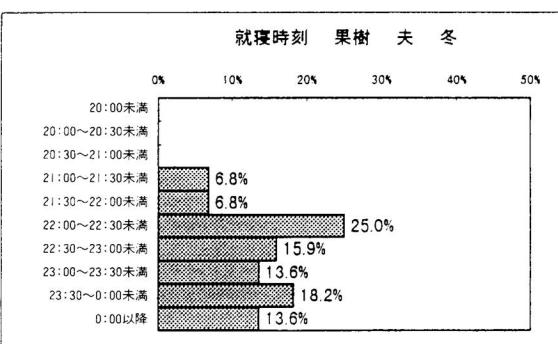


図 7-2-44

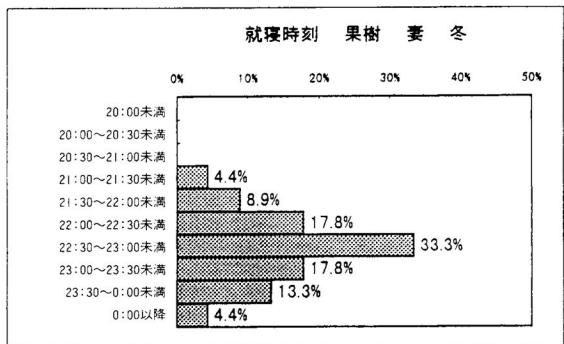


図 7-2-48

表7-3 夫と妻の農作業時間  
(1人1日平均 時間:分)

		経営形態					
		稲作		畑作	野菜	酪農	果樹
		専業	複合				
春	夫	13:10	11:51	6:40	10:24	10:04	9:20
	妻	11:26	10:19	5:47	8:08	7:32	6:29
夏	夫	8:19	8:20	10:22	10:25	11:28	10:09
	妻	7:11	7:26	8:11	8:10	8:08	8:27
秋	夫	10:50	12:01	10:30	11:18	10:52	9:15
	妻	9:38	10:30	8:55	9:00	8:15	7:52
冬	夫	0:30	1:27	1:35	3:38	8:27	1:31
	妻	0:14	1:05	1:11	2:31	6:29	0:40

経営形態別・季節別にみると、夫・妻とも春、秋に長時間の農作業従事の特徴がみられる。夫についてみると、畑作・果樹を除いて、いずれも1日の農作業が10時間以上となり、稲作専業の春では13時間10分、秋の稲作複合においては12時間1分と1日24時間の50%以上を農作業に費やしている。また、酪農・果樹にみると、経営の特質によって夏に長い農作業従事を示す姿もある。

妻についても、稲作の春と秋、野菜の秋には9時間以上11時間をこえる姿がある。冬に於いては、家畜を飼育する酪農を除く他の経営で、夫・妻共農作業時間が短縮しているのは、積雪地域の北海道の特色である。酪農経営の夫と妻は年間をとおして恒常的農作業を担う上からの、生活上の課題が生まれている。

以上は1日あたりの平均農作業時間に関するものであるが、次に実際の行為者率による時間分類によってみてみよう。

ここでは、本研究が対象とする6経営形態の中から北海道農業の特質を有する、稲作複合、畑作、酪農の3形態をとりあげ夫と妻について考察する。

#### 〈稲作複合〉

稲作複合の夫については、図7-3-1、7-3-3で明かのように春には70.8%、秋には72.9%の人達が1日11時間以上農作業を行っている。また春には25.0%、夏には35.4%の人達が9時間～11時間未満働いており、多くの夫たちが長時間の労働に従事している。また冬においても約9割の夫達が5時間未満の農作業に従事し、稲作専業とは異なる特徴を現している。

妻についてみると、春と秋に11時間以上働いている妻が各々34.0%と36.0%あり、この割合を同じ季節の夫と比較すると約2分の1の値となっているも

のの、3割以上の妻が、長時間の農作業に従事していることがわかる。冬には夫と同様の傾向を示し、92.0%が5時間未満の農作業に従事している。

#### 〈畑作〉

次に図7-3-9から7-3-16の畑作についてみると、この対象では夏と秋に高い割合を示し、夏は45.0%、秋には43.8%の夫達が最も長い11時間以上、秋には約40.0%、春には約30.0%が9時間～11時間未満の農作業に従事しており、春から秋にかけての忙しさがうかがえる。この経営においても、冬は83.3%の夫達が5時間未満労働という冬と夏の作業の違いを現している。

妻においては、冬の農作業時間の割合が、夫と似ている他は時間構造が夫と異なる姿になっている。春は7～9時間未満48.0%、5時間未満が38.0%で、夏は11時間以上が16.0%で、夫に比較してその割合が少ない。また、冬については5時間未満の妻が92.0%で、夏と秋の農作業の多忙性が伺える。

#### 〈酪農〉

夫についてみると、飼料作物の生産に、夏57.8%、秋53.9%の夫達が11時間以上働いている。

一方妻についてみると、四季を通して各時間の従事者割合の大きな変動がない。このことは、季節には影響の少ない家畜の飼育を担っている為であろう。ただ、全体的にみると、夏には約28.9%の妻が7時間から9時間未満農作業を行い、秋に9時間～11時間未満従事者が増加している。冬には家畜が飼育のために40%の妻が7時間～9時間未満働き、11時間以上働く妻も2.2%いることは問題である。

以上農業生産活動における夫と妻の従事状況について、時間的側面から見つめた。これらの結果によって、基幹労働力として農作業を担う夫と妻の分担状況、季節及び農業経営の特質と農作業従事時間の関係を把握することができた。

#### 2) 農業用事務

本調査では、農業における経営活動を「農業用事務」として扱った。従ってその内容は多岐に亘るが本調査では、表4-1に示す分類とした。更にここでは表7-4、表7-5の時間分類に示すように、内容を5項目に整理して扱った。次に、行為者率とその平均時間によってみてみよう。

農業事務は、全体としては各シーズン毎に取り組まれているが、まず夫についてみると経営形態によって特徴はあるものの、取り組みの多い季節は第1に冬、第2に春であった。こうした中で特徴を見せた経営として、稲作専業と同複合では夏の行為者率が春に比較してかなり多く現れていた。このこと

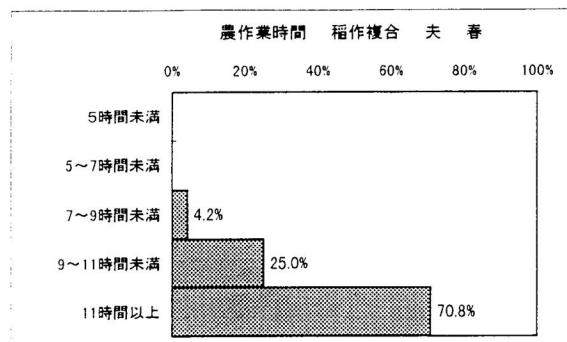


図 7-3-1

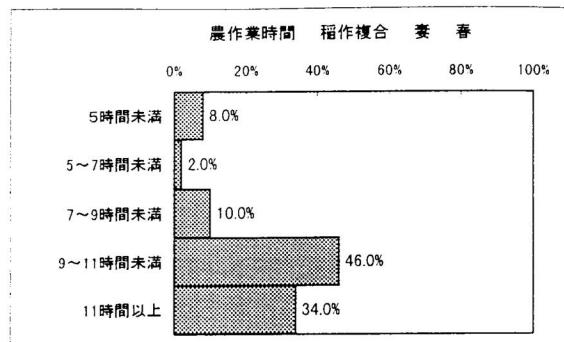


図 7-3-5

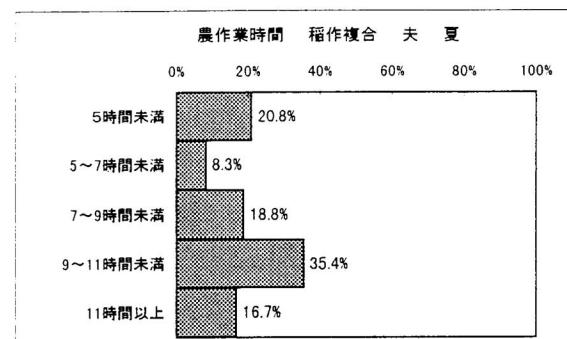


図 7-3-2

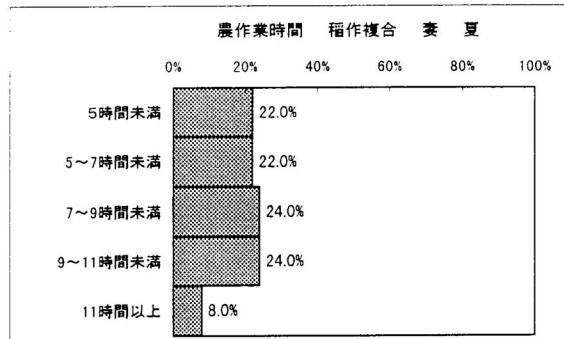


図 7-3-6

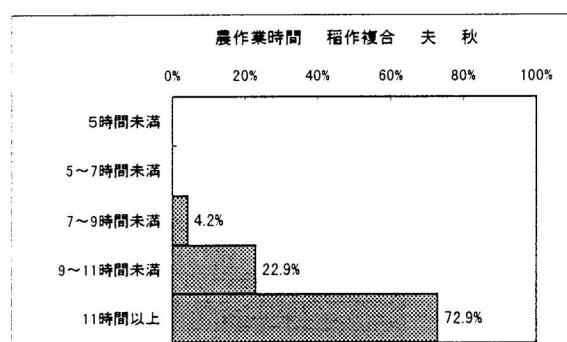


図 7-3-3

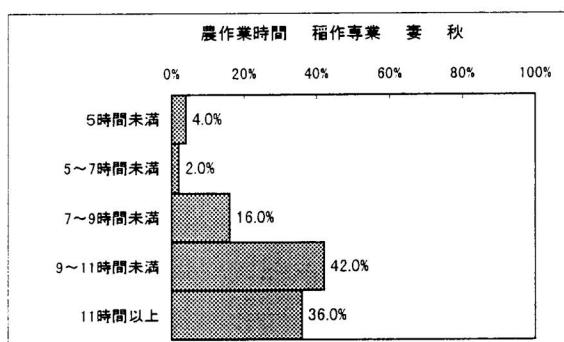


図 7-3-7

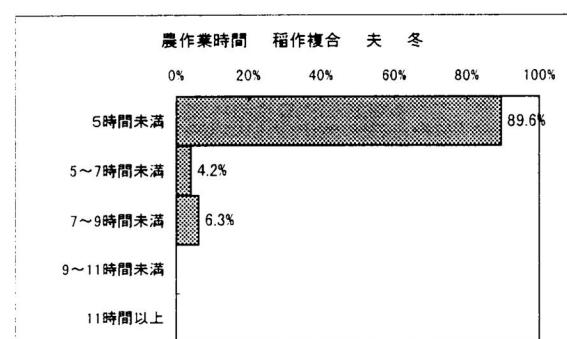


図 7-3-4

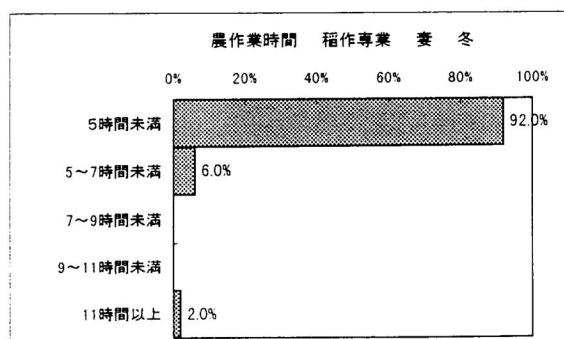


図 7-3-8

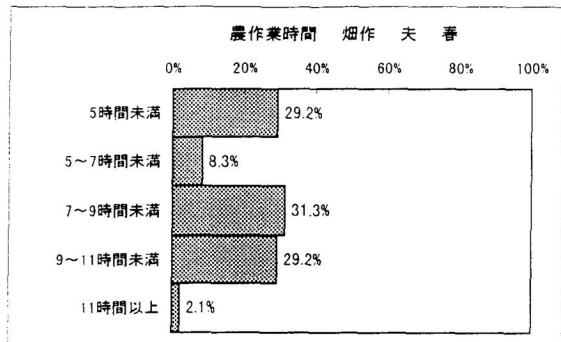


図 7-3-9

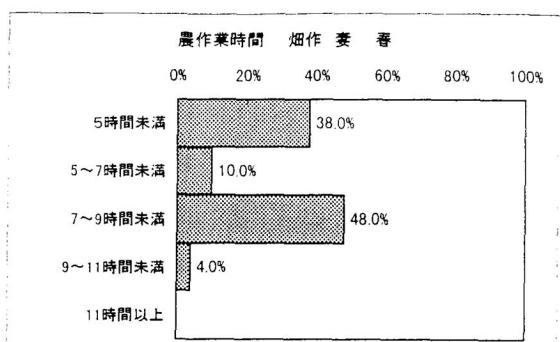


図 7-3-13

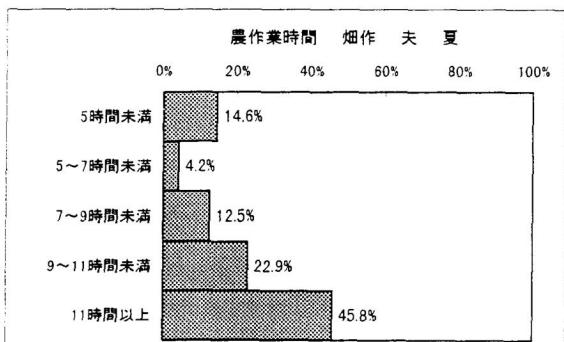


図 7-3-10

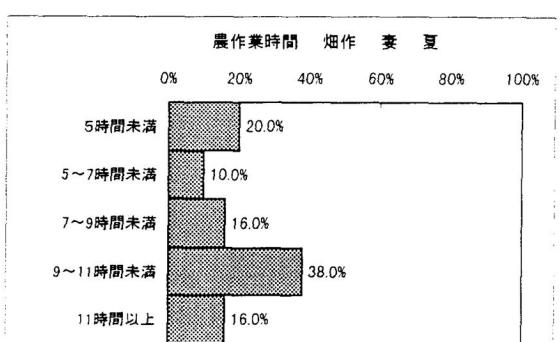


図 7-3-14

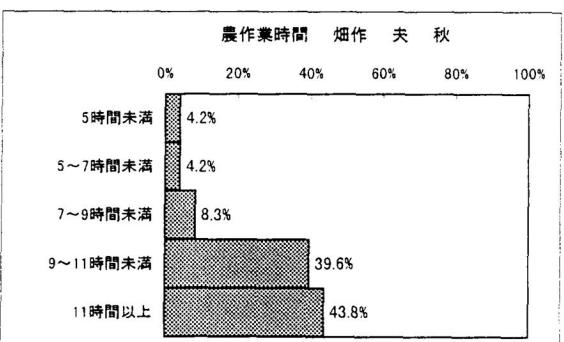


図 7-3-11

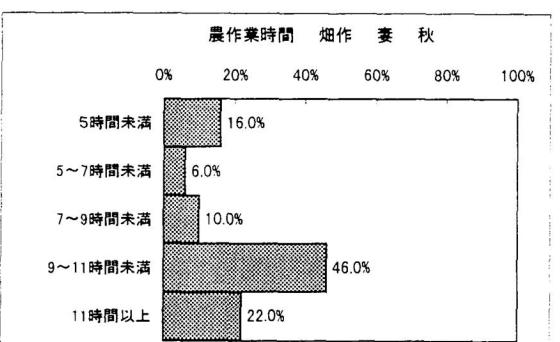


図 7-3-15

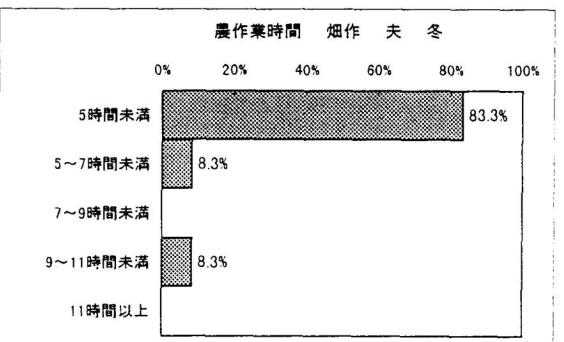


図 7-3-12

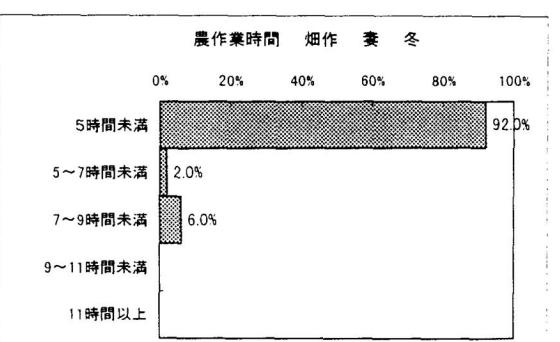


図 7-3-16

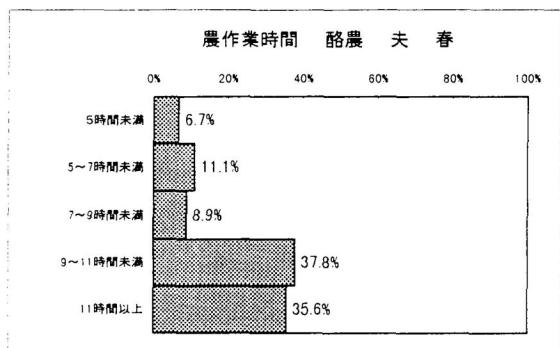


図 7-3-17

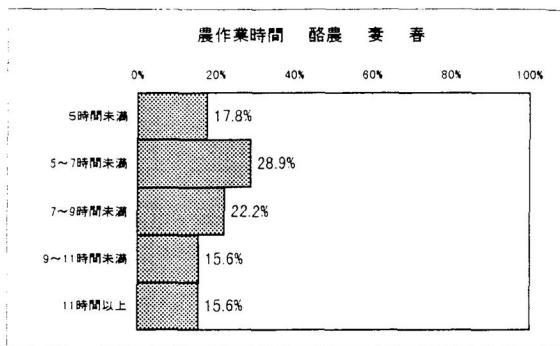


図 7-3-21

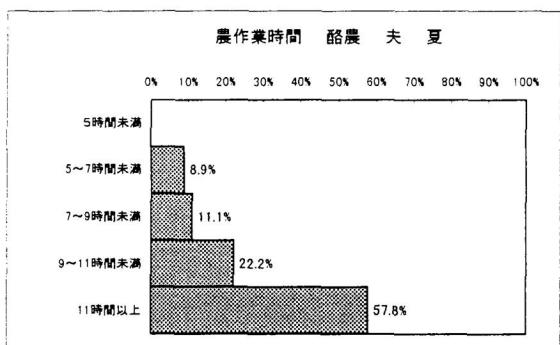


図 7-3-18

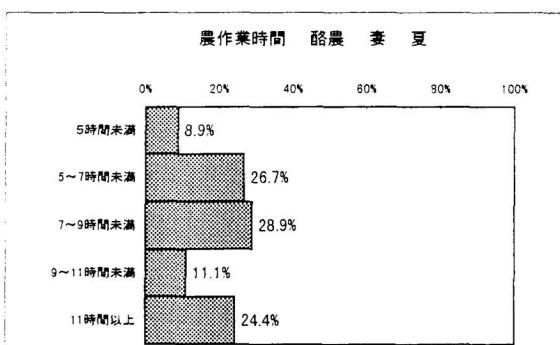


図 7-3-22

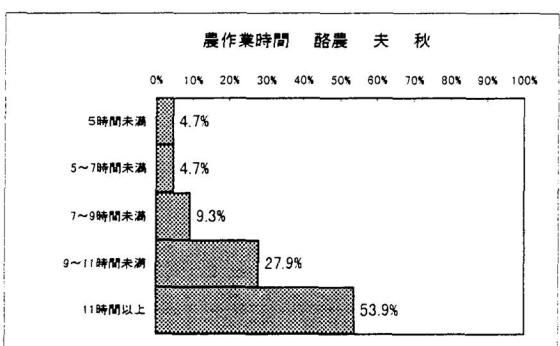


図 7-3-19

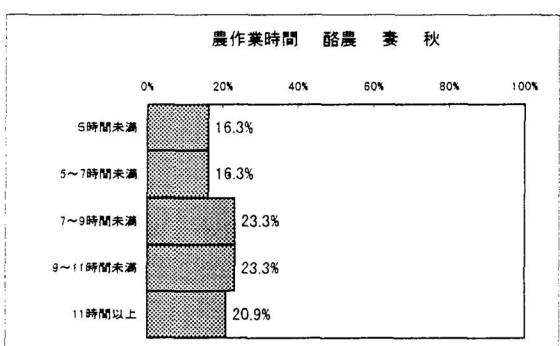


図 7-3-23

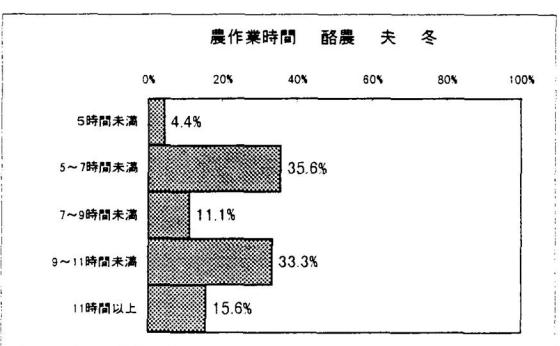


図 7-3-20

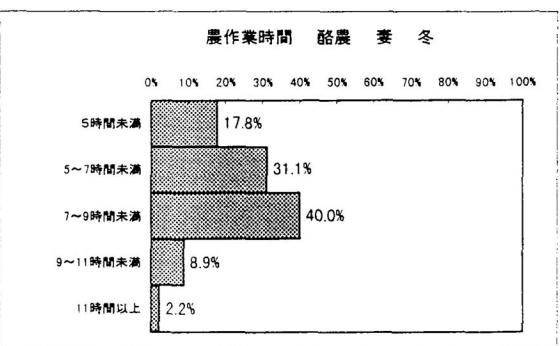


図 7-3-24

はすでに〈表7-3〉夫と妻の農作業時間でみた田植作業の集中する春の農繁期以外の、稻作の農作業の落ち着く7~8月の季節に取り組むというように、

農作業の繁閑との関係が深いことが読みとれる。

妻については、取り組みの多い季節は、夫と同様に冬期に集中しているが、その他の季節においての

表7-4 農業用事務と農外雇用労働(その1)

経営形態	生活時間分類	春			夏			秋			冬			
		行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	
稲作専業	農業用事務	夫	13.3%	0:14	0:01	28.9%	1:34	0:27	22.2%	1:21	0:18	55.6%	4:17	2:22
		妻	17.8%	0:14	0:02	17.8%	1:13	0:13	7.8%	0:16	0:03	20.0%	1:45	0:21
	経営計画	夫	0.0%	0:00	0:00	2.2%	0:30	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00
		妻	2.2%	0:05	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00
	経営管理・記帳	夫	11.1%	0:11	0:01	17.8%	0:21	0:03	4.4%	0:25	0:01	31.1%	3:19	1:02
		妻	13.3%	0:15	0:02	17.8%	0:14	0:02	13.3%	0:08	0:01	15.6%	0:47	0:07
	農協打合せ・その他	夫	2.2%	0:30	0:00	11.1%	2:35	0:17	17.8%	1:35	0:17	24.4%	3:48	0:55
		妻	2.2%	0:20	0:00	2.2%	3:40	12:04	4.4%	0:42	0:01	4.4%	4:55	0:13
稲作複合	農事講習会等	夫	0.0%	0:00	0:00	2.2%	4:10	0:05	0.0%	0:00	0:00	4.4%	3:12	0:08
		妻	0.0%	0:00	0:00	2.2%	4:10	0:05	0.0%	0:00	0:00	2.2%	0:30	0:00
	パソコン	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	11.1%	2:27	0:16
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00
	農外雇用労働	夫	0.0%	0:00	0:00	11.1%	6:17	0:41	0.0%	0:00	0:00	35.6%	7:41	2:44
		妻	0.0%	0:00	0:00	6.7%	4:35	0:18	4.4%	1:37	0:04	8.9%	8:32	0:45
	農業用事務	夫	29.2%	0:35	0:10	47.9%	1:45	0:50	27.1%	0:51	0:14	45.5%	2:23	1:05
		妻	14.6%	0:26	0:03	18.8%	0:43	0:05	14.6%	0:19	0:01	27.9%	2:54	0:48
畠作	経営計画	夫	6.3%	0:46	0	8.3%	0:56	0:04	2.1%	0:30	0:00	4.5%	2:25	0:06
		妻	0.0%	0:00	0	2.1%	0:30	0:00	2.1%	0:15	0:00	4.7%	1:35	0:04
	経営管理・記帳	夫	20.8%	0:22	0:04	16.7%	0:21	0:03	12.5%	0:35	0:04	11.4%	0:55	0:06
		妻	12.5%	0:25	0:03	12.5%	0:10	0:00	12.5%	0:13	0:00	23.3%	1:43	0:23
	農協打合せ・その他	夫	4.2%	0:42	0:01	27.1%	1:52	0:30	18.8%	0:48	0:09	31.8%	2:08	0:40
		妻	2.1%	0:30	0:00	2.1%	0:41	0:02	21.0%	0:40	0:00	7.0%	2:28	0:10
	農事講習会等	夫	0.0%	0:00	0:00	8.3%	2:21	0:11	0.0%	0:00	0:00	4.5%	4:15	0:11
		妻	0.0%	0:00	0:00	2.1%	1:35	0:01	0.0%	0:00	0:00	4.7%	3:32	0:09
	パソコン	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00
	農外雇用労働	夫	0.0%	0:00	0:00	4.2%	7:37	0:19	0.0%	0:00	0:00	59.1%	8:19	4:55
		妻	0.0%	0:00	0:00	6.3%	5:20	0:20	0.0%	0:00	0:00	34.9%	7:06	2:28
畠作	農業用事務	夫	18.8%	1:10	0:13	11.1%	2:14	0:14	10.4%	0:32	0:03	41.7%	2:54	1:12
		妻	0.0%	0:00	0:00	2.1%	1:00	0:01	6.3%	0:11	0:00	2.1%	0:25	0:00
	経営計画	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	6.3%	2:30	0:09
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00

\* 1分未満切り捨て。



本調査結果の実態は調査期日の関係から、農家が集中的に行う時期とのずれも考えられる。

こうした中で、妻の経営計画・経営管理・記帳・農事講習会等への出席等がめだっている。また、酪農の妻にパソコンを担当しているという特徴がみられた。夫については、稲作専業・畑・野菜・酪農・果樹にパソコンの行為者が把握された。酪農家については、夫と妻による取り組みがみられた。こうした取り組みが今後の北海道農家の経営部門にも進展することが期待される。

### 3) 農外雇用労働

すでにみた北海道農業の特徴は、年間の農作業に、作業の繁閑があることであるが農家の収入労働について、農外雇用労働の面から表7-4、表7-5によつてみてみよう。

全体的には、何といつても冬に行為者率が高いが、経営形態の種類によっては、その他の季節にも従事状況がみられる他、妻の従事状況もみられるようになった。

夫については、稲作専業及び稲作複合に行為者率がめだっている。この経営形態では、冬の他に夏においても少ないながらみとめられる。又、畑作、野菜、果樹の冬、酪農の秋、果樹の春と秋に雇用労働がみられた。

本調査では、農外雇用労働については、①土木作業や会社などの農業外就労と②自家以外の農作業に雇われる賃労働などの2種類について扱った。従つて、冬期以外の雇用労働従事については②のタイプの就労形態によるものである。なお農業外雇労については全員自宅よりの通勤によるものであった。

妻の農外雇用労働については、酪農を除く全経営形態に行為者があった。季節的には夫と同じく冬に行為者がめだったが、稲作専業に夏、秋、冬、稲作複合と畑作に夏の就労があった。

次に、就労時間について、各々長短はあるものの、3日間1日平均時間は、夫についてみると、冬においては畑作の6時間30分を最短、稲作専業の8時間19分を最長として各々8時間であった。秋における酪農は4時間20分、果樹は8時間43分で、果樹経営の春は8時間10分となっている。稲作専業と複合の夏の就労時間は、各々6時間17分と7時間37分であった。

妻については、稲作専業が冬8時間32分、稲作複合7時間6分、果樹6時間47分、野菜2時間30分の順になっている。

稲作専業と稲作複合に於ては夏に各々4時間35分と5時間20分、秋は稲作専業のみが1時間37分

であった。

就労形態は各種であったが、妻がスーパーマーケットのパートタイマーとして働くなど、農外雇用労働の姿は、北海道に於ける近年の農村地域社会や農家の夫や妻の生活構造をうきぱりにしたものであつた。

### (3) 家事・育児時間

家事・育児の時間は、家族の健康を守り、労働力の再生産、次の子弟を育てる役割を果たすための各種の条件を整える時間である。本調査では育児を含めて扱った。内容の項目分類は表4-1による。

表7-1によつて、この項目の生活時間構造を、夫と妻別にみると、どの経営をとっても、1日24時間の構成割合が、夫より妻が高い。夫の最高割合でも野菜の冬4.2%にすぎず、ちなみに妻の最低割合は7.6%になっている。

次に表7-6によつて、夫と妻の家事・育児の行為者率と時間量をみてみよう。

まず夫についてみると、前述と同様に、どの経営どの季節についても、夫の行為者率が妻の行為者率より少ないことがわかる。従つて時間量も短いことは言うまでもない。こうした中で稲作専業の夫は行為者率0%を示している。

これに対し、殆んどの妻は、行為者率100%となっているが、稲作専業、稲作複合、酪農において季節的変動がみられる。そのうち、稲作専業に於ては春の時間量が秋と同じく2時間17分で、四季を通じこの経営の最短となっている。また、稲作複合に於ても、春の時間量が1時間59分で、稲作専業と同様に四季の時間中、最短である。

以上により全体を通して妻の家事・育児時間をみると、四季を通して冬が最も長く、季節による農作業の繁閑の影響を大きく受けていること、夫と妻の行為者率及び時間量の大きな差が指摘できる。

### 1) 子供の世話

次に家事・育児時間の中から、夫と妻の子供の世話について表7-7によりみてみよう。

まず夫についてみると、行為者率は冬に増加するもののその割合は全体を通して少なく、稲作農家に0%がめだっている。妻についても夫と同様に、農閑期となる冬に、行為者率及び時間とも増加をみせている。子供の世話については、単なる時間的長短のみではなく、質の問題が問われるものではあるが、夫と妻の共同の取り組みが求められることは言うまでもない。

表7-6 夫と妻の家事・育児行為者率と時間量

		春			夏			秋			冬		
		行為者率(%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)									
稲作専業	夫	0.0%	0:00	0:00	11.1%	0:04	0:04	6.7%	0:26	0:01	31.1%	0:59	0:18
	妻	86.0%	2:17	2:01	100.0%	3:05	3:05	100.0%	2:17	2:17	95.6%	4:46	4:34
稲作複合	夫	21.0%	0:15	0:00	2.1%	0:15	0:00	6.3%	2:26	0:09	29.5%	1:17	0:22
	妻	91.7%	1:59	1:49	91.7%	3:20	2:55	91.7%	2:21	2:21	100.0%	5:03	5:03
畑作	夫	14.6%	3:37	0:31	11.1%	0:26	0:02	12.5%	1:38	0:12	25.0%	1:06	0:16
	妻	100.0%	3:33	3:33	100.0%	3:23	3:23	93.8%	2:34	2:25	100.0%	5:09	5:09
野菜	夫	13.3%	0:50	0:07	13.3%	0:33	0:04	11.1%	0:56	0:06	35.7%	2:50	1:01
	妻	100.0%	4:04	4:04	100.0%	3:40	3:40	100.0%	3:21	3:21	100.0%	4:23	4:23
酪農	夫	17.8%	0:26	0:05	8.9%	1:01	0:05	11.9%	0:32	0:04	26.7%	1:49	0:29
	妻	100.0%	3:28	3:28	100.0%	3:44	3:44	97.6%	3:04	2:59	97.8%	3:40	3:35
果樹	夫	17.8%	1:43	0:18	6.7%	0:42	0:03	8.9%	0:56	0:05	33.3%	1:56	0:39
	妻	100.0%	4:17	4:17	100.0%	3:13	3:13	100.0%	3:29	3:29	100.0%	5:04	5:04

※1分未満切り捨て。

表7-7 子供の世話

		春			夏			秋			冬		
		行為者率(%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)									
稲作専業	夫	0.0%	0:00	0:00	6.7%	0:13	0:00	4.4%	0:32	0:01	13.3%	1:12	0:09
	妻	20.0%	0:44	0:08	22.2%	0:40	0:09	37.8%	0:51	0:19	40.0%	1:01	0:24
稲作複合	夫	0.0%	0:00	0:00	4.2%	0:25	0:01	2.1%	0:15	0:00	15.9%	0:21	0:03
	妻	27.1%	0:33	0:08	27.1%	1:00	0:15	27.1%	1:03	0:19	39.5%	0:54	0:21
畑作	夫	2.1%	0:33	0:05	6.7%	0:30	0:02	6.3%	1:50	0:06	14.6%	0:50	0:07
	妻	18.8%	12:05	0:29	20.8%	2:08	0:26	20.8%	1:00	0:12	45.8%	1:22	0:37
野菜	夫	0.0%	2:39	0:00	0.0%	0:00	0:00	4.4%	0:50	0:02	9.5%	1:20	0:08
	妻	22.2%	0:32	0:07	37.8%	1:19	0:30	33.3%	1:17	0:26	31.1%	1:33	0:29
酪農	夫	2.2%	0:15	0	4.4%	1:25	0:04	4.8%	0:23	0:01	2.2%	0:33	0:01
	妻	46.7%	1:00	0:28	37.8%	1:35	0:36	40.5%	1:21	0:33	51.1%	1:20	0:41
果樹	夫	4.4%	1:20	0:04	2.2%	0:55	0:01	4.4%	0:38	0:02	24.4%	1:24	0:20
	妻	11.1%	0:43	0:05	17.8%	0:53	0:09	55.6%	1:07	0:37	51.1%	2:33	1:18

※1分未満切り捨て

## 2) 家事作業における2次行動

私達は日常生活の中で、炊事をしながら洗濯をするというように、主になる行動をしながら同一時間帯に、もう一つの生活行動を行うことがある。本調査では、主になって行う行動を1次行動、同一時間帯に並行して行う行動を2次行動として扱った。

本調査に於ては、妻が行う2次行動としての家事作業は、掃除・洗濯・育児であった。次に、図7-4によって妻が行う2次行動としての家事作業として、掃除・洗濯の行為者及び平均時間をみてみよう。

2次行動としては、野菜農家のみが四季をとおして洗濯より掃除の2次行動行為者平均時間が上まわっていた。2次行動は同一時間帯に2つの仕事を行うことによって、1日24時間の枠を越えて時間を有効に使う手段ともいえる。多忙な農家の妻にとっ

て、洗濯や掃除など効率的処理が求められる家事作業等にとって、役立つ助っ人でもある。生活時間経営の上からより効果的活用が必要と考える。

## (4) 社会的・文化的生活時間

本研究においては、1日24時間の生活時間のうち、必需時間、収入労働時間、家事・育児時間などの時間を除いた自由時間、社会的時間、マスコミとの接触時間を含めた生活時間を、社会的・文化的生活時間として、夫と妻の多様な余暇活動の把握につとめた。

## 1) つきあい・交際

つきあい・交際には、地域行事への参加、冠婚葬祭、仕事上の会合、打ち合わせ、交際、来客(友人・知人・隣人など)、学校行事、PTA活動を内容とし

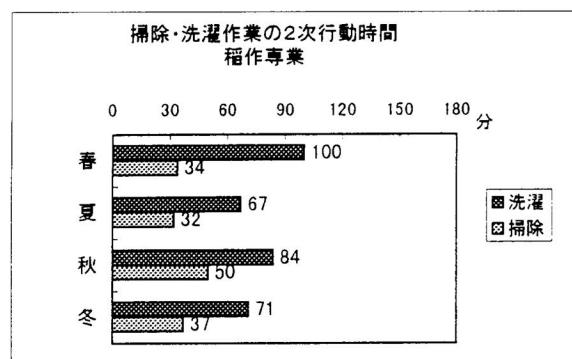


図 7-4-1

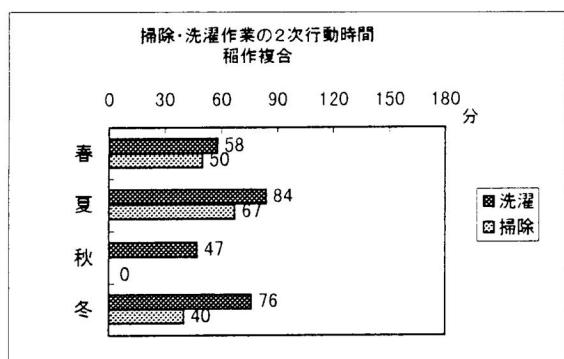


図 7-4-4

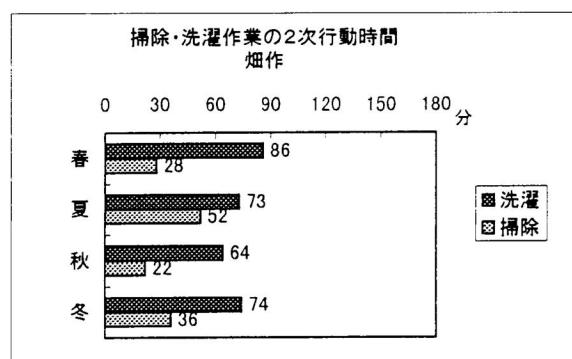


図 7-4-2

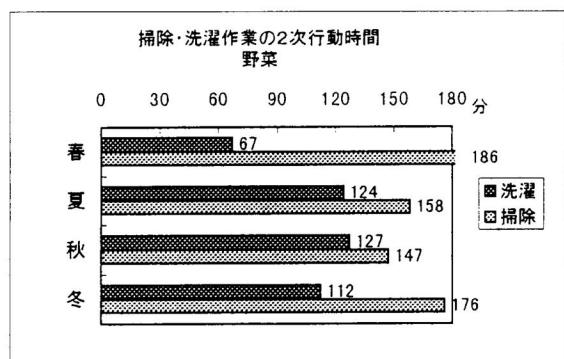


図 7-4-5

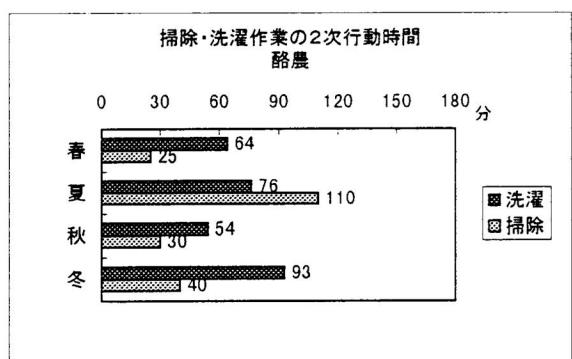


図 7-4-3

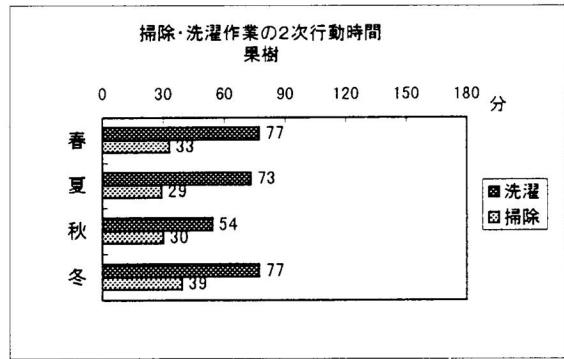


図 7-4-6

た。

以下、表 7-8 によってみていくこととする。

全体的にみると、酪農経営に於て、妻の割合が夫より高い傾向を示している。また、畑作については全体的に四季を通して、夫も妻も高い割合となっており、各経営形態とも、冬期に高い傾向が見うけられる。中でもこの季節の稻作専業の妻の行為者率が全経営形態中最も高い。

### 2) レジャー活動

この活動は自由時間として、自己の生き甲斐や楽しみ、成長に結びつく生活行動の時間として考えた

い。

表 7-9 によって内容をみると、全体的に行行為者率の低さがめだつ中で畑作の妻の春、夏の行為者率が際立って高い。また、各形態の夫、妻とも冬期の行為者率が揃って高くなっているものの、前述のつきあい・交際に比較すると行為者平均時間はめだって短い。また、農作業の季節的繁閑の影響が大きいことがわかる。

### 3) 家族だんらん

都市は勿論のこと、農村に於ても、家庭生活における豊かなコミュニケーションが求められている。

表7-8 つきあい・交際

	春			夏			秋			冬			
	行為者率(%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)										
稲作専業	夫	24.4%	0:42	0:10	55.6%	2:37	1:27	20.0%	2:34	0:30	44.4%	5:07	2:16
	妻	42.2%	0:40	0:17	40.0%	1:41	0:40	31.1%	1:45	0:32	73.3%	2:50	2:05
稲作複合	夫	31.3%	1:13	0:22	20.8%	2:53	0:36	20.8%	0:46	0:09	45.5%	2:52	1:18
	妻	16.7%	1:35	0:15	16.7%	1:46	0:28	16.7%	0:58	0:03	34.9%	2:22	0:49
畑作	夫	60.7%	3:48	2:18	42.2%	2:59	1:15	37.5%	2:32	0:57	64.6%	4:21	2:48
	妻	64.6%	2:08	1:22	35.4%	1:41	0:35	35.4%	2:27	0:52	58.3%	3:27	2:01
野菜	夫	24.4%	3:26	0:50	24.4%	2:25	0:35	11.1%	1:26	0:10	38.1%	4:26	1:41
	妻	33.3%	1:59	0:40	24.4%	2:08	7:00	1.3%	1:18	0:10	28.9%	2:43	0:47
酪農	夫	33.3%	2:58	0:59	22.2%	2:29	0:33	19.0%	2:49	0:32	13.3%	3:29	0:28
	妻	40.0%	2:03	0:49	26.7%	0:57	0:15	35.7%	1:56	0:42	35.6%	2:06	0:45
果樹	夫	31.1%	3:54	1:13	22.2%	3:42	0:49	24.4%	3:05	0:45	44.4%	4:47	2:08
	妻	48.9%	1:15	0:36	26.7%	1:22	0:22	22.2%	3:18	0:44	42.2%	3:32	1:29

※1分未満切り捨て。

表7-9 レジャー活動

	春			夏			秋			冬			
	行為者率(%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)										
稲作専業	夫	0.0%	0:00	0:00	6.7%	5:01	0:20	0.0%	0:00	0:00	20.0%	7:08	1:25
	妻	2.2%	1:00	0:01	20.0%	2:33	0:30	8.9%	1:13	0:06	48.9%	3:05	1:30
稲作複合	夫	4.2%	0:10	0:00	12.5%	2:47	0:20	0.0%	0:00	0:00	18.2%	0:45	0:08
	妻	6.3%	0:05	0:00	6.3%	0:50	0:13	6.3%	0:16	0:01	30.2%	1:28	0:26
畑作	夫	0.0%	0:00	0:00	4.4%	2:17	0:06	2.1%	1:00	0:01	18.8%	2:32	0:28
	妻	66.7%	2:01	1:20	60.4%	1:32	0:56	10.4%	0:31	0:03	33.3%	2:18	0:46
野菜	夫	8.9%	0:23	0:02	8.9%	0:51	0:05	8.9%	2:46	0:15	23.8%	2:01	0:29
	妻	6.7%	1:03	0:04	11.1%	2:20	0:16	11.1%	2:48	0:19	24.4%	2:10	0:32
酪農	夫	22.2%	1:53	0:25	11.1%	2:29	0:17	11.9%	1:51	0:13	20.0%	3:08	0:38
	妻	13.3%	0:45	0:06	13.3%	1:41	0:13	14.3%	2:26	0:21	17.8%	2:15	0:24
果樹	夫	6.7%	2:53	0:12	6.7%	6:38	0:27	4.4%	0:45	0:02	15.6%	9:29	1:29
	妻	11.1%	1:49	0:12	13.3%	5:43	0:46	6.7%	1:37	0:06	20.0%	2:14	0:27

※1分未満切り捨て。

その基礎ともいえる家族のだんらんについて、夫と妻の行為者率と平均時間を見てみよう。(表7-10)

全体的に夫も妻も、行為者率、平均時間共に低く短いといえよう。冬期間に上昇といつても、平均時間は長くはないことが問題である。

#### 4) マスメディア接触

##### ① テレビ

マスメディア接触を、テレビ、ラジオによって把握した。実態は表7-11のようになった。

実際にテレビを視聴している人はどのような割合になり、1日どの位の時間視聴しているのであろうか。表7-10によてみると、行為者率は各経営形態共に約30.0%から70.0%の範囲にあり、最も高い視聴行為者率を示したのは野菜の冬における夫の81.0%、2時間21分であった。

##### ② ラジオ

一方、ラジオについては、表7-11にみるように、畑作の夫の夏における6.7%、1時間21分と、冬における果樹の妻の2.2%、1時間15分のみで他はすべて0.0%であり、聴取率の低さがわかる。

##### ③ テレビ及びラジオにみる2次行動

以上は、1次行動としてみたテレビの視聴状況であるが、日常生活における「ながら行動」テレビ視聴も見のがせない。図7-5-1から5-8は、テレビ視聴の1次行動と2次行動についての状況である。

これを見ると、日常生活における2次行動としてのテレビの役割が如何に大きいものであるかがよくわかる。稲作専業、稲作複合、畑作の夏における夫と妻、及び稲作複合の秋における夫と妻のテレビ視聴の2次行動が特に目立ちこの経営における夏の大

の1次と2次合計時間は1日11時間6分、妻11時間46分となり、全体として、2次行動としてのテレビのながら視聴時間は、夫の2次視聴が1次視聴の

8.2倍、妻が5.3倍となっている。

次に、ラジオの2次行動について、図7-6-1から図7-6-8によってみてみよう。

表7-10 家族だんらん

		春		夏		秋		冬	
		行為者率 (%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量(時間:分)
稻作専業	夫	0.0%	0:00	0:00	6.7%	5:00	0:20	2.2%	0:15
	妻	4.4%	0:05	0:00	6.7%	0:15	0:01	6.7%	0:20
稻作複合	夫	20.8%	0:51	0:10	41.7%	1:24	0:35	2.1%	0:10
	妻	16.7%	1:35	0:15	16.7%	1:46	0:28	29.2%	1:21
畑 作	夫	6.3%	0:13	0:00	8.9%	0:12	0:01	14.6%	0:07
	妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	6.3%	0:13
野 菜	夫	35.6%	1:15	0:27	33.3%	1:22	0:27	26.7%	1:24
	妻	28.9%	1:07	0:19	24.4%	0:58	0:14	15.6%	1:20
酪 農	夫	17.8%	0:53	0:09	11.1%	1:05	0:07	16.7%	0:45
	妻	26.7%	0:50	0:13	11.1%	1:13	0:08	21.4%	0:43
果 樹	夫	26.7%	1:38	0:26	33.3%	1:37	0:32	20.0%	2:08
	妻	31.1%	0:57	0:18	28.9%	1:07	0:19	37.8%	1:17

\*1分未満切り捨て。

表7-11 テレビ・ラジオ

		春		夏		秋		冬		
		行為者率 (%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量(時間:分)	全体平均時間量(時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量(時間:分)	
テ レ ビ	稻作専業	夫	48.9%	1:01	0:30	64.4%	1:36	1:02	62.2%	1:13
		妻	37.5%	0:58	0:23	35.6%	1:14	0:26	60.0%	1:03
	稻作複合	夫	43.8%	0:56	0:25	41.7%	1:12	0:30	35.4%	1:08
		妻	37.5%	0:46	0:17	37.5%	1:53	0:44	37.5%	0:53
	畑 作	夫	72.9%	2:17	1:40	75.6%	2:08	1:37	66.7%	1:44
		妻	68.8%	1:47	1:14	56.2%	1:10	0:39	64.6%	1:22
	野 菜	夫	37.8%	1:11	0:27	37.8%	1:23	0:31	37.8%	1:00
		妻	33.3%	1:00	0:20	40.0%	1:01	0:24	28.9%	0:52
	酪 農	夫	57.8%	0:54	0	51.1%	1:05	0:33	52.4%	1:18
		妻	60.0%	0:53	0:32	51.1%	1:10	0:36	57.7%	0:46
	果 樹	夫	40.0%	1:04	0:26	31.1%	1:30	0:28	44.4%	1:29
		妻	53.3%	1:06	0:35	26.7%	1:15	0:20	42.2%	0:52
ラ ジ オ	稻作専業	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
	稻作複合	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
	畑 作	夫	0.0%	0:00	0:00	6.7%	1:21	0:05	0.0%	0:00
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
	野 菜	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
	酪 農	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
	果 樹	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00
		妻	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:02

\*1分未満切り捨て。

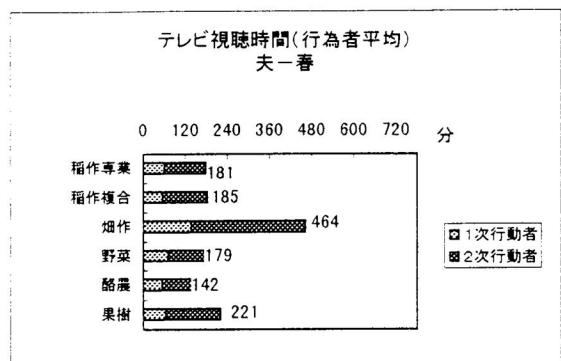


図 7-5-1

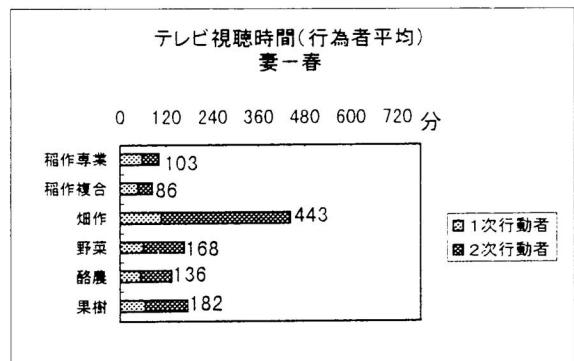


図 7-5-5

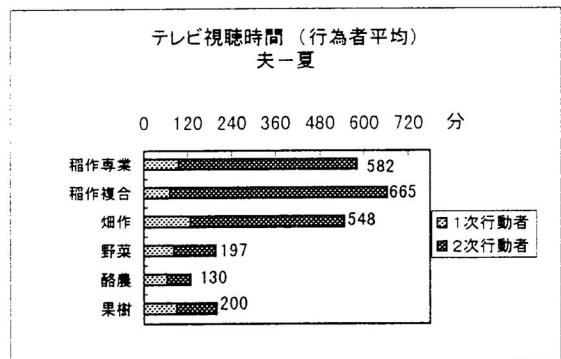


図 7-5-2

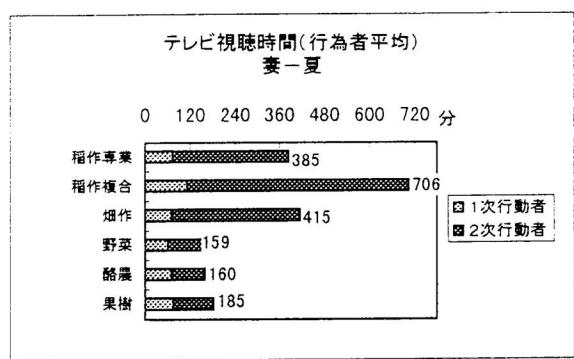


図 7-5-6

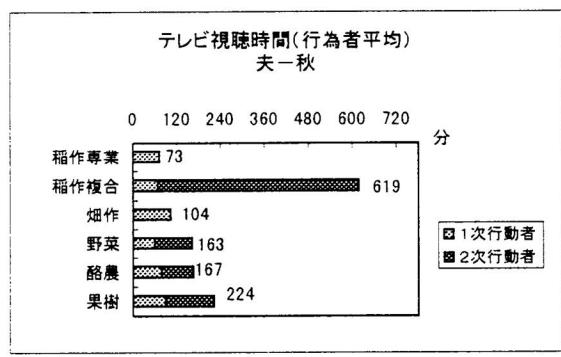


図 7-5-3

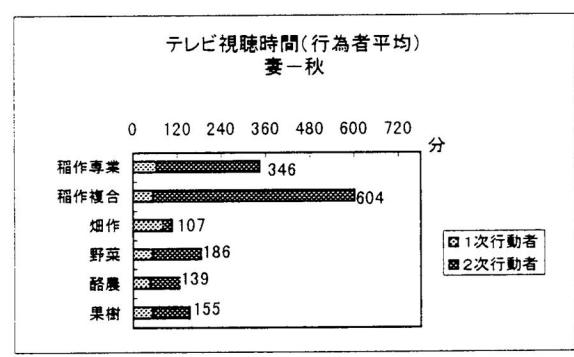


図 7-5-7

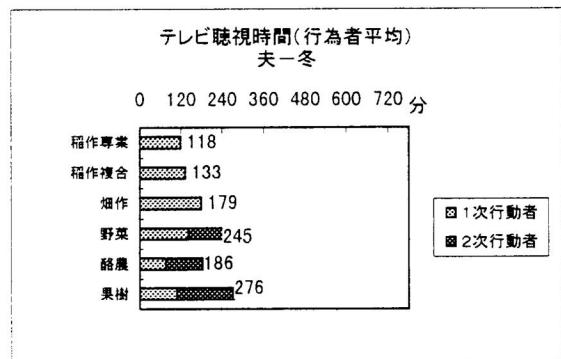


図 7-5-4

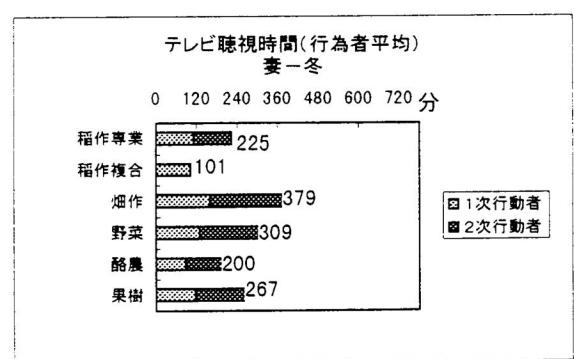


図 7-5-8

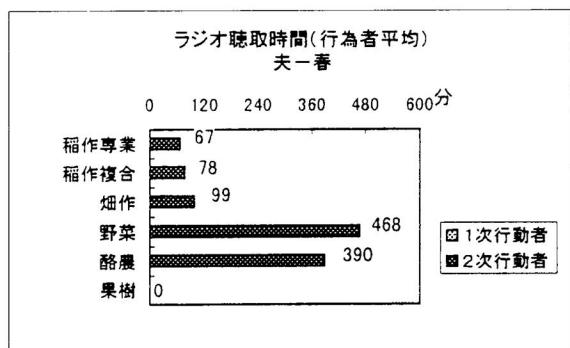


図 7-6-1

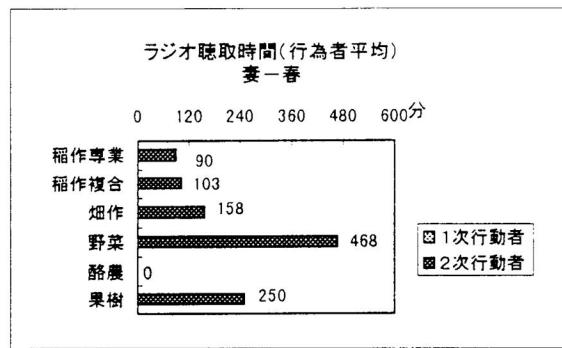


図 7-6-5

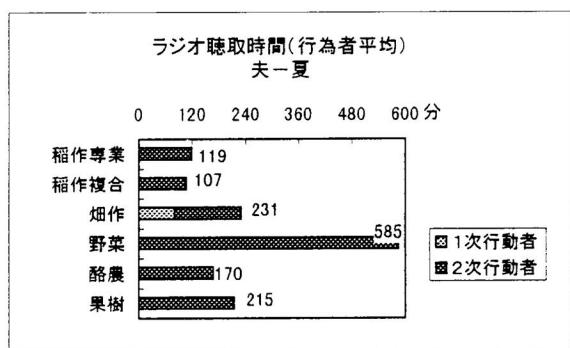


図 7-6-2

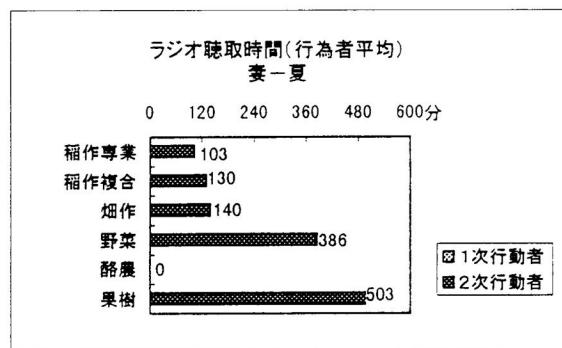


図 7-6-6

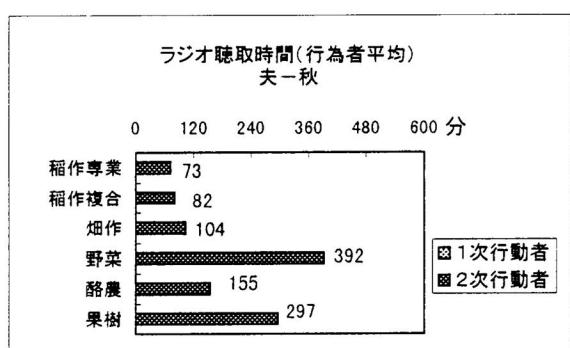


図 7-6-3

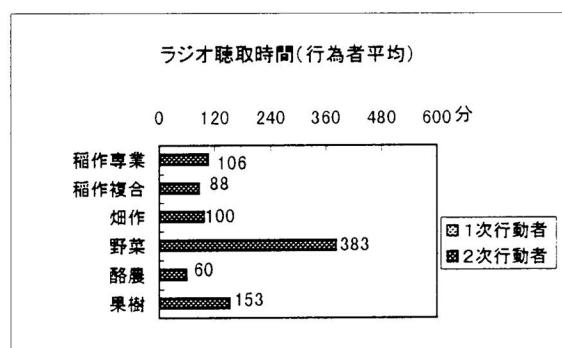


図 7-6-7

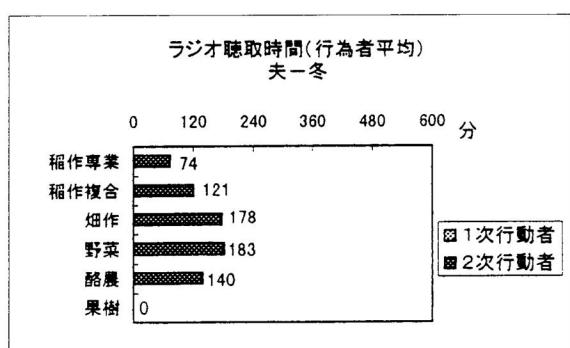


図 7-6-4

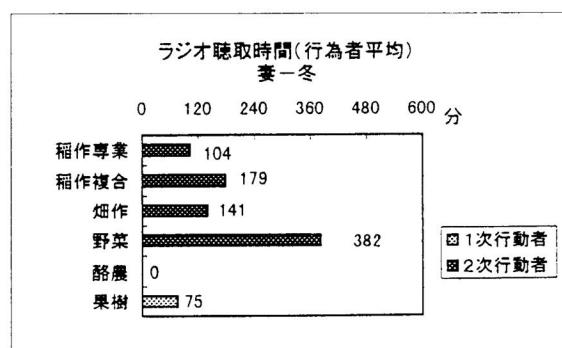


図 7-6-8

夫も妻も、春から秋にかけて聴取割合が高い。特に野菜の春・夏・秋・冬、酪農の春、果樹の秋、についての夫、野菜の春・夏・秋・冬、果樹の春・夏・秋、の妻が目立っている。

農家における2次行動としてのラジオの聴取は、例えばハウス内における苗の選定、花の選別等、農作業時に、ながら行動として行っている。この他としては、農外雇用労働時の仕事場、車の運転をしながらの聴取である。すでに表7-10でみたように1次行動としてのラジオの聴取は畑作の夫の1時間21分と、果樹農家の妻の1時間15分のみにとどまっている、対象者の日常生活におけるラジオ聴取は、専ら2次行動としての活用方法であるといえる。

#### ④ 新聞・読書

表7-12で、夫と妻の新聞・読書の行為者率と平均時間量をみてみよう。

3日間平均で、少しでも新聞や本を読む人をみると

と、全体的に妻より夫の方が多い、その中で特にめだって多かったのは、50.0%の行為者率を示した稻作専業の夏の夫であった。ちなみに5位までの夫をみると、2位は果樹の冬、44.4% 59分、3位は冬の野菜の42.9% 55分、4位は春野菜の40.0% 39分、及び夏果樹の40.0% 26分、5位は夏酪農の37.8% 27分であった。又、妻をみると1位は冬野菜の37.8% 1時間14分、2位は冬稻作複合の37.5% 45分、3位は冬稻作専業の31.1% 48分、4位は夏野菜の26.7% 28分と、冬酪農の26.7% 34分、5位は春野菜の22.2% 37分であった。

季節としては、冬に揃って割合が上昇する傾向が見えた。なお本調査における実態をみると、その殆んどが、新聞購読行動であり、読書については全体で3件程度の実態であった。テレビの視聴が日常生活に定着する中で、対象農家の夫と妻についての活字メディアにおける行動低下がめだった。

表7-12 新聞・読書

	春			夏			秋			冬			
	行為者率(%)	行為者平均時間量(時間:分)	全休平均時間量(時間:分)										
稻作専業	夫	2.2%	1:00	0:01	0.0%	0:00	0:00	4.4%	0:52	0:02	11.1%	0:57	0:06
	妻	2.2%	1:00	0:01	6.7%	1:20	0:05	2.2%	0:55	0:01	31.1%	1:00	0:18
稻作複合	夫	10.4%	0:30	0:03	50.0%	0:39	0:19	2.1%	0:40	0:00	2.3%	1:30	0:02
	妻	18.8%	0:33	0:06	18.8%	0:19	0:04	18.8%	0:23	0:06	37.5%	0:45	0:17
畑作	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	2.1%	1:00	0:01
	妻	2.1%	0:45	0:00	0.0%	0:00	0:00	6.3%	0:36	0:02	12.5%	0:41	0:05
野菜	夫	40.0%	0:39	0:15	28.9%	0:23	0:07	31.1%	0:48	0:15	42.9%	0:55	0:24
	妻	22.2%	0:37	0:08	26.7%	0:28	0:07	17.8%	0:31	0:06	37.8%	1:14	0:28
酪農	夫	28.9%	0:46	0	37.8%	0:27	0:10	26.2%	0:36	0:10	15.6%	0:28	0:04
	妻	15.6%	0:59	0:09	20.0%	0:26	0:05	19.0%	0:46	0:09	26.7%	0:34	0:09
果樹	夫	28.9%	0:31	0:09	40.0%	0:26	0:11	17.8%	0:42	0:07	44.4%	0:59	0:28
	妻	11.1%	0:11	0:01	6.7%	0:40	0:03	13.3%	0:16	0:02	20.0%	1:13	0:15

\*1分未満切り捨て。

## 8 考 察

「農家生活の質的向上に関する研究」の一環として、経営形態別農家の30代~40代農家夫妻92組を対象として、「北海道における農家夫妻の生活行動と生活時間」に関する生活時間調査を、6経営形態92組について実施した。結果の考察を次により行う。

### I 生活時間構造からみた農業と生活の関連

#### (1) 農作業における生活時間構造の特徴

生産と生活が密接に関連する農家生活においては、生活が受ける農業の影響は数多くあると考えられるが、ここでは農業における生活時間構造の特質から考えたい。

農業生産活動における夫と妻の農作業時間は、総体的に長時間に亘ると共に、春・秋の農繁期と冬の農閑期の季節的差が大きく認められた。

これを1日24時間に占める収入労働時間の割合

(表7-1)によつてみると、夫について全経営形態を通して、稻作専業と稻作複合が最も高く各々、55.9%と51.75%にのぼり1日24時間中50%以上の時間を収入労働に費やしている。妻については、稻作専業の48.8%が最も高く、続いて稻作複合の44.9%と、夫・妻とも稻作部門が高かった。次に春(農繁期)と冬(農閑期)との差については、最大は野菜の25.4ポイント、続いて果樹の15.8ポイントであった。この差が最も小さかったのは酪農の5.1ポイントで、ちなみに春44.8%、冬39.7%の割合で、年間を通して恒常的農作業従事の姿がうきぼりにされた。

妻については、夫と同様に稻作専業が最も高く40.2ポイント、続いて稻作複合の24.6ポイントでいづれも夫を大きくしのいでいた。差が最も低かったのは夫と同様酪農で4.5ポイントであった。

以上、生活時間構造からみた農作業の概要であるが、夫と妻の長時間労働と季節別に経営形態別特徴をみることができる。

## (2) 睡眠と起床時刻

人間の生命の維持と健康を支えるために必要不可欠の睡眠は、1日24時間の3分法によると、1日8時間とされてきた。本調査対象者のうち、1日8時間台であったのは、冬の野菜経営の夫と妻で、各々8時間34分と8時間08分、畑作の夫、8時間19分で、他は6時間台と7時間台であった。全体的特徴としては、大きな差とはいえないが夫より妻の時間が短い時間であった。冬の農閑期には時間が長くなっている姿を現している。こうした中で酪農の夫と妻が四季を通して殆ど変わらず6時間台を示しており、ここでも家畜を飼育する経営の特徴を現している。

ちなみに、日本人の睡眠時間はNHK国民生活時間調査(1995)によると、平日の全国平均男子7時間36分、女子7時間21分、全国30代男・7時間14分、女・7時間07分、全国40代男・7時間20分、女・6時間54分、勤め人の女・7時間03分、北海道の全体平均は7時間41分となっている。

次に対象農家の起床時刻についてみると、各経営形態各々に特徴があるものの、全体を通して、夫・妻とも農作業の繁・閑の影響をうけ、春・夏・秋の3シーズンと農閑期の冬との変化をみせ、冬はゆっくり起床タイプが特徴である。この季節を除き全体的には朝5時前には約40%以上の人々が起床しているなど、春から秋にかけて夫も妻も早起スタイルが特徴といえよう。こうした中で、酪農家では夏・冬とおして恒常的農作業のあることを、夫と妻の起

床時刻の構造からも把握することができる。

## (3) 農作業時間と家事作業時間との関連

図8-1は妻の従事する農作業時間と家事作業時間との関連を経営形態別・季節別に図示したものである。各々の経営形態をみると、農作業が長くなると家事作業が短くなる変化をみせている。図でみるとおり、妻の家事作業時間は、従事する農作業の特徴によって、その長さに影響のあることがわかる。

さらに、図8-2によって、稻作複合、畑作、酪農の経営形態における妻の季節別家事労働の姿をみると、

農作業の繁忙期になると多くの妻達の家事時間が短縮されることがよくわかる。

以上のことから、主婦の従事する家事作業の長短は、農業経営形態と、これを形成する農作目、家畜の種類、農作業歴の特徴、農作業の繁閑、農作業従事構造、家族形態(主婦以外の祖母による家事担当者)等が大きい要因となっていると言える。

## 2 農家夫妻の生活活動における役割分担と生活時間配分

家族労働を中心として經營する農業を支え、家族の健康を守り、次代の担い手を育てる生き甲斐のある豊かな農家生活の創造は、夫と妻の適正な役割分担と共同により培われるものである。これらの視点にたって、調査結果をみると、

まず、夫と妻の農作業時間の分担率をみたのが表8-1である。第1報で述べたように、本調査を含む対象農家の妻達の96.0%は、夫と共に農業の基幹労働の重要な担い手である。その姿を、時間的側面から夫との比較によって明らかにした。

これをみると、農作業の分担率は、稻作専業の冬の妻の31.8%と果樹の冬の30.5%を除いて、他は全て40%をこえ、50%に迫っており、この姿は、妻がいなければ各農家の農業は成り立たない現況にあることを現しているといえよう。

こうして農作業を担う妻たちは、前述のとおり家事作業の担い手でもある。妻が担う総労時間は対象農家の経営形態別、季節別にまとめたのが表8-2である。

ここでも総労時間は、農作業の繁閑の影響のもとに特徴をみせ、多忙な季節にはその多くは10時間以上となり、稻作専業農家の春には、13時間27分という長時間労働を行っている妻もいる。このことは大きな問題である。

すでに述べたように、本調査では、農業の経営面の作業については、農業用事務他として扱った。こ

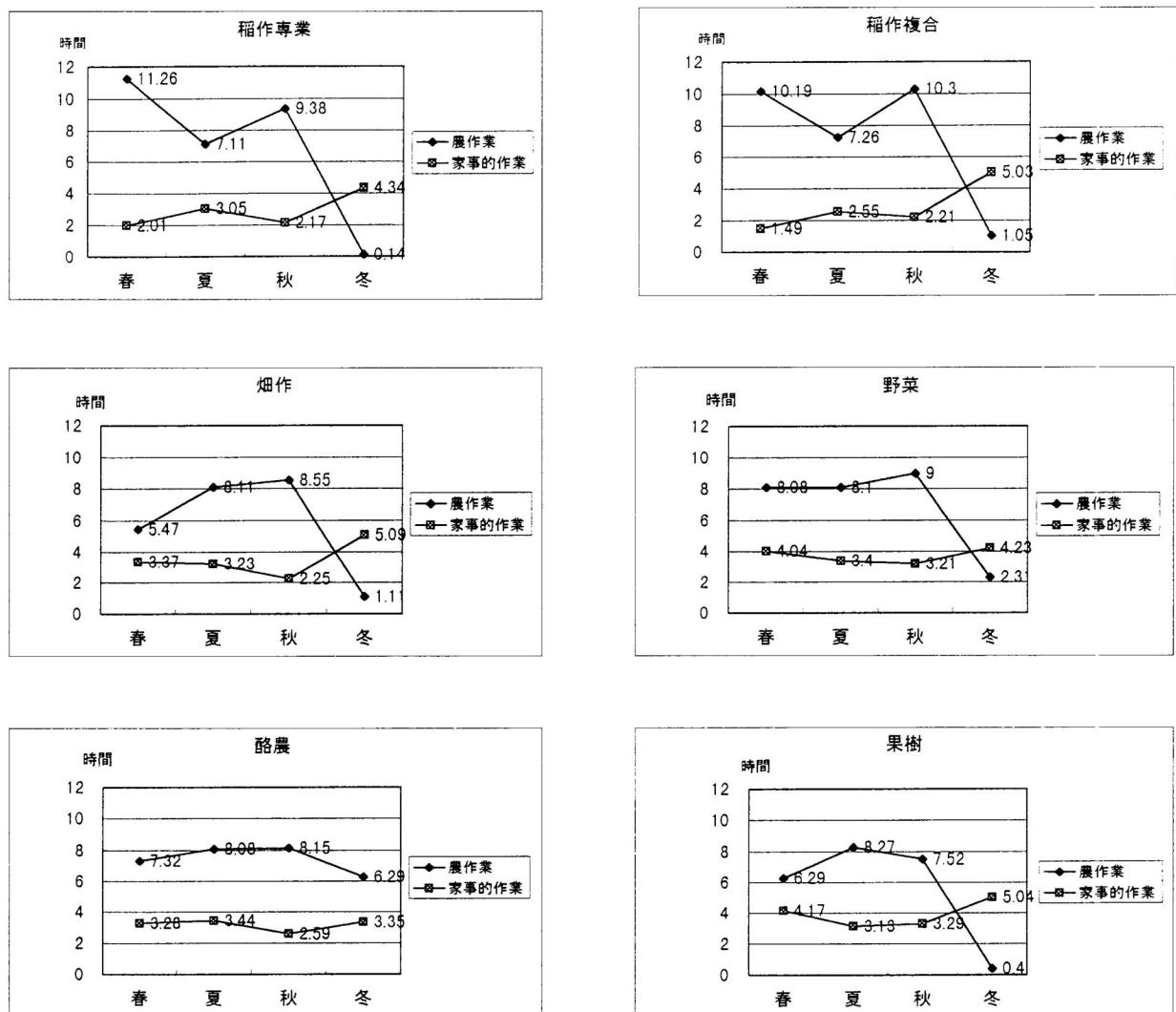


図 8-1 妻の季節別農作業時間と家事作業時間

の部門の実態は前述のとおり、調査の時期との関係があったにもかかわらず活動の進展をみている現状であった。

妻が担う農作業従事時間の効果的短縮、及び経営知識・技術の修得による妻の経営参画が望まれるところである。

### (3) 自立した生活者としての家事作業

「人間の自立」は経済のみではなく、1人の人間として主体的に生きる基礎構造として経済共々健康の価値が認識されるようになった。健康の自立をもとに、主体的に生きるために、生活技術の自立は欠くことのできない要件と言えよう。それを育むのは、日々の家庭生活における体験学習である。その意味からここでは生活者としての自立の様態を家事作業行動の実態から把握しようと考える。

表8-3は夫と妻の、炊事・掃除・洗濯行動につい

ての経営別・季節別生活時間である。夫の行為者率と平均時間をみると、冬になっても0%が日立つ低い割合である。しかし殆どの妻は90.0%~100%の行為者率を示し平均時間も、季節的変動はあるものの確保ができている。このことは農家の家族構成上2世代家族の形態が多数を占め、第1報で述べた本調査対象主婦を含む農家の家族構成からみて若夫婦の母が家事を担い、特に繁忙期の活躍は家族にとって大きな助けとなっていることが伺える。しかしこの為、男性は家事を担う場は殆どない。特に我が国では「男子厨房に入らす」の社会的通念の下に育てられその思想が残っているという影響も大きい。生活技術を身につけた夫と妻の協力で営む家庭のあり方が、今後一層求められる課題といえるよう。

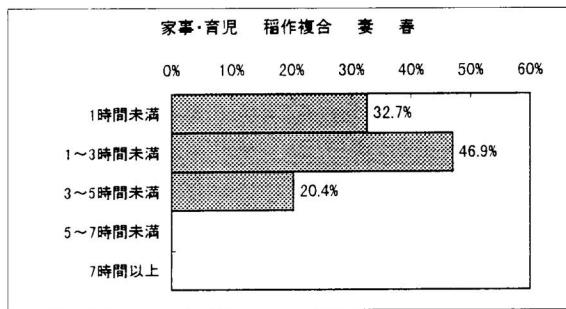


図 8-2-1

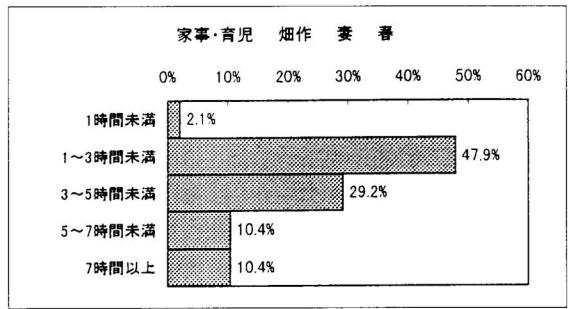


図 8-2-5

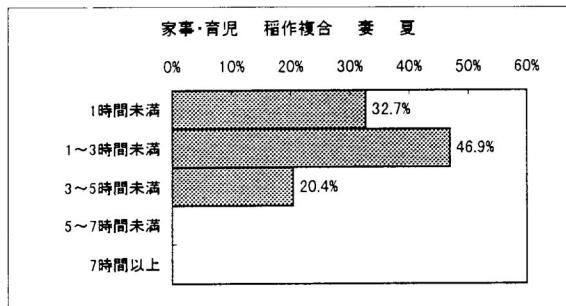


図 8-2-2

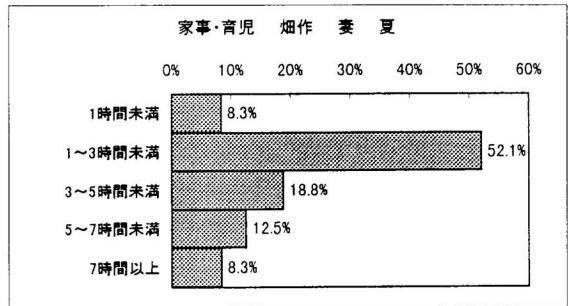


図 8-2-6

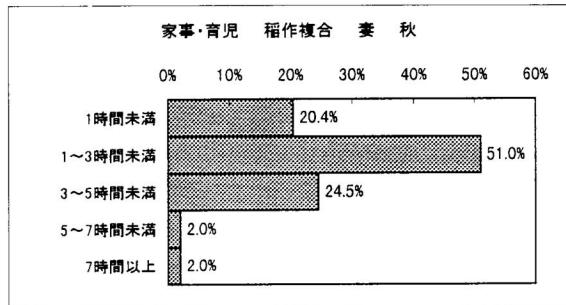


図 8-2-3

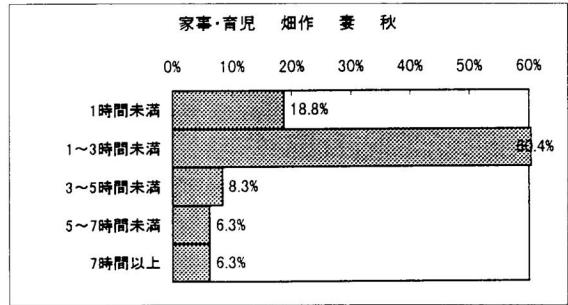


図 8-2-7

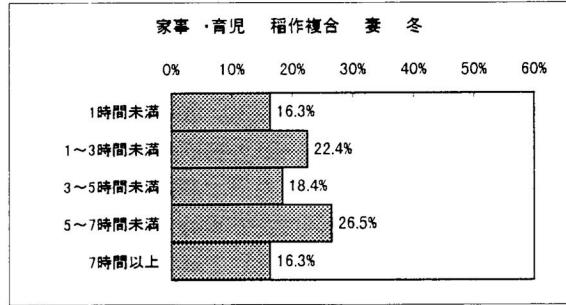


図 8-2-4

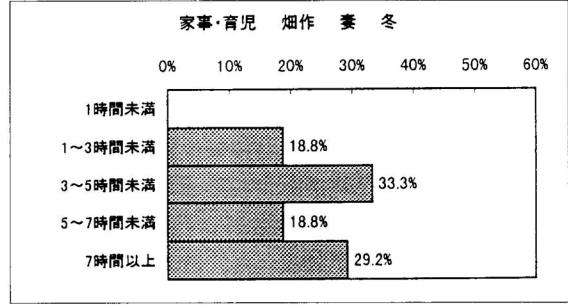


図 8-2-8

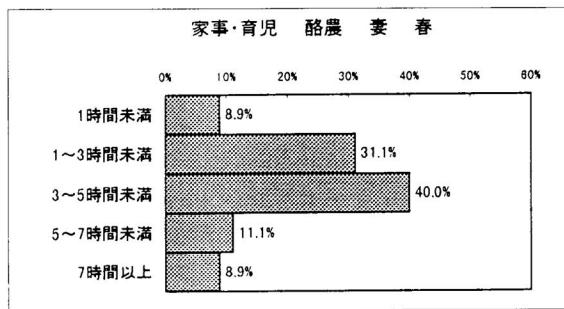


図 8-2-9

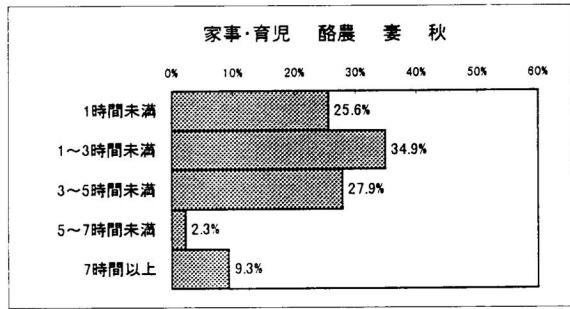


図 8-2-11

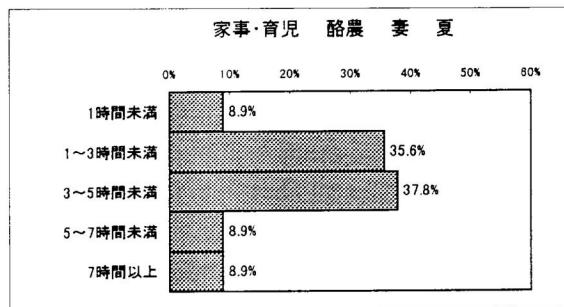


図 8-2-10

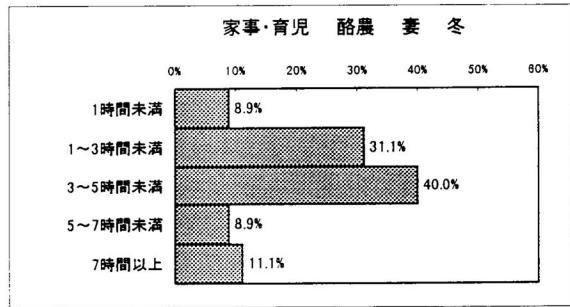


図 8-2-12

表 8-1 夫と妻の農作業時間分担割合

		経営形態				
		稲作	畑作	野菜	酪農	果樹
		専業	複合			
春	夫	53.5%	53.5%	53.5%	56.1%	51.4%
	妻	46.5%	46.5%	46.5%	43.9%	48.6%
	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
夏	夫	53.7%	52.9%	55.9%	56.1%	51.5%
	妻	46.3%	47.1%	44.1%	43.9%	48.5%
	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
秋	夫	52.9%	53.4%	54.1%	55.7%	56.8%
	妻	47.1%	46.6%	45.9%	44.3%	43.2%
	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
冬	夫	68.2%	57.2%	57.2%	59.1%	49.0%
	妻	31.8%	42.8%	42.8%	40.9%	51.0%
	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 8-2 妻の総労働時間—平均時間—

(時間：分)

	春			夏			秋			冬		
	農作業	家事的作業	計	農作業	家事的作業	計	農作業	家事的作業	計	農作業	家事的作業	計
稲作専業	11:26	2:01	13:27	7:11	3:05	10:16	9:38	2:17	11:55	0:14	4:34	4:58
稲作複合	10:19	1:49	12:08	7:26	2:55	10:21	10:30	2:21	12:51	1:05	5:03	6:08
畠作	5:47	3:33	9:20	8:11	3:23	11:34	8:55	2:25	11:20	1:11	5:09	6:20
野菜	8:08	4:04	12:12	8:10	3:40	11:50	9:00	3:21	12:21	2:31	4:23	6:54
酪農	7:32	3:28	12:00	8:08	3:44	11:52	8:15	2:59	11:14	6:29	3:35	10:04
果樹	6:29	4:17	10:46	8:27	3:13	11:40	7:52	3:29	11:21	0:40	5:04	5:44

## 3 社会的・文化的生活時間からみた生活活動

本研究においては、1日24時間の生活時間のうち、必需時間、収入労働時間、家事・育児時間などの時間を除いた自由時間、社会的時間、マスコミとの接触時間を含めた生活時間を、社会的・文化的生活時間として扱った。

自由時間にかかる生活活動は、自己の生き甲斐や楽しみ、成長に結びつく重要な活動である。

全体を通じ、この活動に費す時間は夫・妻ともに行為者率、時間の低さがめだった。また、農作業の季節的繁閑との関係が大きいことがわかった。

つきあい・交際の行為者率は妻が夫よりも高く、経営形態としては全体をとおして、稲作経営の妻が最も高い姿となっている。自己の生き甲斐や楽しみ、

表 8-3 炊事・掃除・洗濯行動

	春			夏			秋			冬			
	行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	行為者率 (%)	行為者平均時間量 (時間:分)	全体平均時間量 (時間:分)	
稲作専業	夫	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	2.2%	0:25	0:00	
	妻	82.2%	1:39	1:21	100.0%	2:15	2:15	100.0%	1:30	1:30	95.6%	3:20	3:11
稲作複合	夫	22.9%	0:44	0:10	4.2%	0:05	0:05	0.0%	0:00	0:00	4.5%	1:25	0:03
	妻	91.7%	1:32	1:24	91.7%	2:06	2:06	91.7%	1:38	1:38	100.0%	3:17	3:07
畑作	夫	4.2%	1:20	0:03	2.2%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00
	妻	100.0%	2:31	2:31	97.7%	2:24	2:24	93.8%	1:58	1:50	100.0%	3:02	3:02
野菜	夫	4.4%	0:23	0:01	2.2%	0:00	0:00	2.2%	0:10	0:00	2.4%	0:35	0:01
	妻	100.0%	3:06	3:06	93.3%	2:27	2:27	100.0%	2:27	2:27	100.0%	2:56	2:56
酪農	夫	6.7%	0:32	0:02	2.2%	0:01	0:01	7.1%	0:38	0:03	0.0%	0:00	0:00
	妻	97.8%	2:01	1:59	93.3%	2:02	2:02	88.1%	2:04	1:49	95.6%	2:02	1:57
果樹	夫	8.9%	0:48	0:04	0.0%	0:00	0:00	0.0%	0:00	0:00	2.2%	1:30	0:02
	妻	100.0%	3:06	3:06	97.8%	2:41	2:41	100.0%	2:25	2:25	100.0%	2:57	2:57

※1分未満切り捨て。

表 8-4 家族形態

(人)

家族構成	経営形態								計 (%)					
	稲作		野菜 (%)		畑 (%)		酪農 (%)							
専業 (%)	複合 (%)													
夫婦	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0				
夫婦+子供	1	2.1	4	8.0	1	2.2	4	10.5	1	8.0	4	8.2	18	6.4
夫婦+両親	5	10.4	3	6.0	2	4.3	1	2.6	1	2.0	2	4.1	14	5.0
夫婦+父親	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
夫婦+母親	1	2.1	1	2.0	0	0.0	0	0.0	2	4.0	1	2.0	5	1.8
夫婦+子供+両親	25	52.1	20	40.0	29	63.0	22	57.9	33	66.0	27	55.1	156	55.5
夫婦+子供+父親	1	2.1	4	8.0	4	8.7	0	0.0	1	2.0	1	2.0	11	3.9
夫婦+子供+母親	6	12.5	7	14.0	5	10.9	6	15.8	6	12.0	7	14.3	37	13.2
夫婦+子供+父親+他の人	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	2	0.7
夫婦+子供+母親+他の人	2	4.2	2	4.0	3	6.5	2	5.3	0	0.0	1	2.0	10	3.6
その他	6	12.5	6	12.0	2	4.3	3	7.9	3	6.0	4	8.2	24	8.5
N.A.	0	0.0	2	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	3	1.1
計		48		50		46		38		50		49		281

成長に結びつく要素の大きいレジャー活動については、つきあい・交際活動に比較すると行為者平均時間はめだって短い。そうした中で、冬に行行為者率とその平均時間は増加するものの、全体平均時間は、非常に短い状態である。家族だんらんについては、全体を通して夫・妻とも行為者率・時間共に低く短いといえる。このことは季節・農作業の繁閑にあまり関係ない状態といってよい。

都市は勿論、農村においても家庭生活における家族の豊かなコミュニケーションが求められている今、大きな課題といえる。

次にマスメディアとの接触を、ラジオ・テレビの視・聴率と時間についてみた。ラジオについては、

僅かの夫と妻が、農作業の2次行動として聴取している状態であった。テレビの視聴は1次行動としては、全体的に冬に視聴率が高い傾向を現しており、全体的に、夫と妻共、同じ傾向にあるといえる。

テレビ視聴の特徴としては、2次行動つまりながら行動としての視聴率・視聴時間が高く長いことが特徴であり、その傾向は妻に目立っている。

新聞・読書については、調査期間中、少しでも新聞・本を読む人は、妻より夫に多く、その中でめだつて多かったのは、夏の稲作専業の夫の50.0%であった。妻にみる1位は、冬の野菜の37.5%であった。季節としては冬に上昇する傾向がみえたが、全体としては行為者率は低い姿となっている。

テレビの視聴が日常生活に定着する中で、農家の夫と妻の活字メディアにおける課題も大きいものがある。農業の経営上、生活の経営上、地域社会の文化的環境上からの対策が求められる課題といえる。

### 9 調査研究結果のまとめ

「農家生活の質的向上に関する研究」に基づく研究調査として行った「生活経営からみた農家生活の実態(北海道調査)」と関連して、同一対象の中から選定した妻とその夫について、生活時間調査を実施し、時間の側面から農家夫婦の生活行動の把握を行った。次に今回の生活時間調査結果と前回実施のアンケート調査との結果を総合しながら研究の結果を考察したい。

「生活の質」とどのようにとらえるかは至難のことであるが、本研究では前述の視点と目的にそって研究に取り組んだ。取り組みの姿勢としては、農家生活を目的にそって総合的、動的にとらえることを基本に、可能な限り具体的に把握するように心がけた。それと共に、都市労働者(サラリーマン)とは基本的に異なる生活構造を有する農家生活について、基本的特質をふまえて、先に述べた「生活重視の農業」の視点から各々生活の実態把握を行った。

研究の第1として実施した「アンケート調査」によって、農家生活そのものの実態と、農家の妻たちの生活に対する意識について多くの内容を把握する

ことができた。(第1報「生活経営からみた農家生活の実態(北海道調査)」)

その中から主な点をまとめてみると、

①農家の妻の農業に果たす役割は、夫と共に96.1%の妻達が北海道農業の基幹労働力を担っていること(表9-1)また労働力面のみではなく、農業の経営面でも数多くの役割を果たしている実態を把握した。

②こうして働く一方に於て、農作業が季節により長時間に亘ること、又、家族の健康を守り、慰安と楽しみ、人づくりの役割を果たす家事労働が農作業の影響によって短縮すること、(表9-3)③妻たちの家庭生活の満足度・地域生活の満足度が不満と満足の中間にあり不十分の域を出でていないこと、(表9-4、表9-5)④休日や余暇時間が充分にとれないこと、⑤家事労働に関する男女の分担意識が低いこと、⑥更に生活・農作業の向上対策への意識、⑦余暇確保に関する阻害要因等、多くの実態と意識を把握した。

次に研究の第2として実施した本生活時間調査結果と併せて全体のまとめを行うこととする。

農業が与える生活への影響については

最も大きいものは、働く妻の季節的長時間労働である。妻の従事する労働についてはすでに述べたように、農作業に加えての家事労働による延長化が大きな問題といえる。そのため、本調査に於いても、

表9-1 農業生産活動の分担状況

(人)

生産活動	経営形態									計 (%)				
	稲作		野菜		畑作		酪農		果樹					
	専業(%)	複合(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)					
夫婦とも基幹労働	46	95.8	43	86.0	39	84.8	37	7.4	47	94.0	47	95.9	259	92.2
夫のみ基幹労働	0	0.0	0	0.0	1	2.2	1	2.6	1	2.0	1	2.0	4	1.4
妻のみ基幹労働	1	2.1	6	12.0	3	6.5	0	0.0	0	0.0	1	2.0	11	3.9
妻は家事に専念	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	2	0.7
その他	0	0.0	1	2.0	3	6.5	0	0.0	1	2.0	0	0.0	5	1.8
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	48		50		46		38		50		49		281	

注)「基幹的労働者」とは、「農業就業人口」のうち、調査日前1年間のふだんの主な状態が「仕事に従事していた者」のことをいう。

なお、「農業就業人口」とは、「調査期間日前1年間に『農業のみに従事した世帯員』及び『農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数が多い世帯員』をいう。以上、「農林水産省農業センサス」を参照した。

表9-2 農業経営活動の種類数

項目	経営形態					経営活動の種類数
	稲作		野菜	畑作	酪農	
	専業	複合				
経営活動の種類数	11	11	10	8	11	10

四季を通じて調査を行った結果繁忙期には、酪農に於ては大きな差はみられないものの、他の経営形態農家に於ては家事作業が短縮をみる姿が明らかになった。また先のアンケート調査結果に於いてはこうした農作業の軽減対策としては第1に労働配分を考え作業体系をかえること、第2に作業の計画化、

表9-3 平均家事作業時間

(1人1日平均)

	経営形態						全体平均	
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹		
	専業	複合						
農繁期	2時間 6分	2時間26分	3時間 0分	2時間19分	2時間16分	2時間59分	2時間31分	
平常期	2時間52分	3時間12分	3時間29分	2時間43分	3時間 4分	3時間15分	3時間 6分	
農閑期	4時間 8分	3時間58分	3時間54分	3時間43分	3時間10分	4時間 1分	3時間49分	

機械化の推進、が大きく上っている(表9-9)、いずれも経営する「人」の経営能力にかわる対策であり、機械の共同化対策等の推進などを考えることは至難なことなのであろうか。

また、妻が従事する農業の経営部門への参加も少なくない(表9-2)。生産労働の担手としての役割を軽減し経営労働に参画することが強く望まれる。

こうした中で、家事労働の効率化・充実化の対策として、アンケートに現れた結果、最も多い割合を示したのは、「家族が身の回りのことを自分でする」67.3%、続いて「家族の協力で家事分担」61.6%、更に91.0%が「主婦の農作業を減らす」であった(表9-8)。このことは家族各々の生活技術の自立、家事分担といった、人と人との協力体制の必要性を大きく求めている結果であろう。

次に家事作業を生活時間との関連で把握考察を行った結果、夫の家事時間の短さ、一方、農作業と家事作業に長時間の労働を行っている主婦の実態が明らかになった。こうした中で妻たちの意識改革も必要である。アンケートで行った家事担当への意識調査結果に於いては、「家事は男女が平等にする」との答は2.1%、女だけが行う理由はないが15.3%、家事は女性が行う仕事である8.9%、最も多かったのが、その時に応じて男女で負担するが70.5%であった(表9-7)。家庭は夫と妻がそれぞれの立場で最も適した合理性によって分担することが必要である。すでに述べたように生活技術は生活者としての自立につながり生活の創造による知恵と喜びの源であり、今家庭に求められている生活機能の原点であることを考え、取り組む必要がある。

生活時間構造からみた生活問題としては、自由時間としての余暇の問題が重要である。調査結果でみたようにレジャーにかかる生活時間構造からみた夫と妻の現状は必ずしも十分な姿とはいえない結果であった。一方アンケート調査結果からは、余暇活動のさまたげの要因として、ここでも平日の時間が

表9-4 家庭生活の満足度

(点)

	経営形態						平均	
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹		
	専業	複合						
家族そろっての食事	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	3.0	2.9	
夫婦の会話(時間)	2.8	2.8	2.9	2.9	3.0	3.0	2.9	
家事への夫の参加・協力	2.5	2.3	2.5	2.4	2.5	2.5	2.4	
家族そろってのレジャー・旅行	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.2	2.3	
家族の収入	2.5	2.6	2.5	2.6	2.6	2.4	2.6	
家族の財産と貯蓄	2.4	2.6	2.4	2.5	2.4	2.4	2.4	
家電製品・家具・自動車などの耐久消費財の所有	2.6	2.7	2.8	2.7	2.9	2.7	2.7	
満足度の平均点	2.5	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	

大変満足=4 満足=3 不満=2 大変不満=1

表9-5 地域生活の満足度

(点)

	経営形態						平均	
	稲作		野菜	畑作	酪農	果樹		
	専業	複合						
スポーツ・レクリエーション施設	2.6	2.6	2.6	2.3	2.7	2.3	2.5	
カルチャーセンター・習い事教室	2.6	2.5	2.4	2.3	2.1	2.2	2.4	
幼児保育施設	2.9	2.8	2.7	3.0	2.8	2.9	2.8	
図書館	2.8	2.6	2.5	2.4	2.8	2.7	2.6	
保健所・病院	2.5	2.5	2.5	2.4	2.1	2.5	2.4	
音楽・演劇等の鑑賞の機会	2.4	2.3	2.2	2.0	2.2	2.2	2.2	
満足度の平均点	2.6	2.6	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5	

大変満足=4 満足=3 不満=2 大変不満=1

ない、休みがないが大きくあげられ、週1日はとするべき34.5%、ぜひとも週2日ほしい2.1%にたいして、週休確保は難しいが52.0%と半数にのぼっていた(表9-6)。これらのこととも、前述の経営改善の取り組みや我が家に合った休日のとり方、使い方による確保の工夫が必要である。

これらの改善の取り組みについては、生活のサイドからのみでは達成することは望むことは出来ない



ものであり、生活重視の農業の視点にたった経営と生活の連携が大きく求められよう。

## 要 約

「農家生活の質的向上に関する研究」の一環として、北海道における、稲作専業・稲作複合・畑作・野菜・酪農・果樹の6経営形態別農家の30歳代~40歳代の夫と妻92組を対象として、春・夏・秋・冬各3日間にわたり「生活時間調査」を実施し、実態把握と考察を行った。

生活時間の分類は、生活必需時間、収入労働時間、家事・育児時間、社会的・文化的生活時間の分類を用い、農家生活の特質をよりよく把握できるよう配慮した。調査結果による課題として①夫と妻の長時間農作業、②妻の農作業と家事労働による長時間労働等、農業が及ぼす農家生活への影響、③夫及び家族の生活技術の自立問題、④生き甲斐、文化及び社会とのコミュニケーションに関する生活時間充実化をはじめ、地域環境整備の必要性など多くの課題が明らかになった。

このことは、人間の成長や充実を重視することを生活の基本にすべて、生活を支える農業、農業を支える生活の重要性が浮き彫りになったといえよう。

本研究で把握した「農家生活の質的向上」に関する課題解決のためには、生活重視の視点にたった農業経営と、家族の健康や生き甲斐、ゆとりや充実感の実感できる生活実現を目指した生活経営との連携の必要性をはじめ、関連する社会体制の、足許からの整備が大きく求められるものである。

## 謝 辞

本研究の実施にあたり、多大の協力を頂いた酪農学園大学、堀内一男教授、同大学酪農経営学研究室研究生、小名孝雪氏、調査対象地区農業改良普及センター及び生活関係改良普及員、記帳農家の皆様に心からの御礼を申し上げます。

## 注

### 指標の定義

行為者率：1日24時間の時間幅に該当の行動を5分以上した人が全体の中で占める割合

行為者平均時間量：該当の行動を5分以上した人がその行動に費やした時間量の平均

全体平均時間量：該当の行動をしなかった人も含めた調査対象者全体がその行動

に費やした時間量の平均

## 参考文献・引用資料

- 1) 森ます美・天野寛子、伊藤セツ、大竹美登利  
1983 「都市勤労者夫婦の生活時間・生活行動(第2報)」 家政学雑誌 220 日本家政学会
- 2) NHK放送文化研究所編 1996 「日本人の生活時間—1995—NHK国民生活時間調査」 NHK出版協会
- 3) 農村生活総合研究センター 平成6年 「農山漁家婦人・高齢者の農林水産・生活に関する基本調査—平成5年版」 農村生活総合研究センター発行
- 4) 経済企画庁国民生活局国民生活調査課編  
昭和50年 「生活時間の構造分析」 大蔵省印刷局
- 5) 藤本武 1974 「最近の生活時間と余暇」 労働科学研究所
- 6) 笠山京 1982 「三訂新家庭管理学」 光成館
- 7) 総務庁統計局 1991 「社会生活基本調査報告」 日本統計協会
- 8) 後藤郁子・森夏節・飯村しのぶ 崔徳卿  
1996 「農家生活の質的向上に関する研究 生活経営からみた農家生活の実態—北海道調査—」 酪農学園大学紀要 第21巻第1号(35号) 酪農学園大学 北海道文理科短期大学

























## 【記入のしかた】

- おひとり一日1枚です。(3) 日分の記録をしてください。
- お祭り、旅行など特別の日をのぞいて、ふだんの生活をしている日について、書いてください。
- 雨の日も記録してください。(その日の天気も忘れずに○印をつけてください)
- 生活時間量の最小の区切りは、5分です。5分にならない時間量がある場合は、その行動の下に時間量を(たとえば、トイレ3分など)メモして書いてください。
- 2つ以上の行動を同時に行った場合(そらじをしながらテレビを見たなど)には、主な2つの行動を下の《記入例》のように、二段に分けて記録してください。

## 《記入例》

		午前6時	30	7時	30	
行動	同時進行	起床	身支度	そらじ	炊事	食事
					テレビ	テレビ

(例1)

起 床	身支度	搾乳準備	搾乳	仔牛の補乳	仔牛の補乳	テレビ・ラジオ・…
						新聞・読書
						レコード・CD
						ビデオ・映画
						休息……休憩 うたたね お茶・おやつ 晩酌 ほんやり過ごす など
						その他……お祈り 宗教的な勤め など

(例2)

## &lt;男 性 用&gt;

		午前時間記入用紙 ★記入のしかた】をご覧ください。												
		月 日 (曜日)												
		午前0時	30	1時	30	2時	30	3時	30	4時	30	5時	30	午前6時
行動	午前6時													
同時進行	午後6時													
午後7時	30	午後1時	30	2時	30	3時	30	4時	30	5時	30	午前6時		
行動	午後6時													
同時進行	午後7時													
午後8時	30	午後3時	30	4時	30	5時	30	6時	30	7時	30	8時	30	午後9時
行動	午後8時													
同時進行	午後9時													
午後10時	30	午後4時	30	5時	30	6時	30	7時	30	8時	30	9時	30	午後11時
行動	午後10時													
同時進行	午後11時													
午後12時	30	午後5時	30	6時	30	7時	30	8時	30	9時	30	10時	30	午後1時
行動	午後12時													
同時進行	午後1時													
午後1時	30	午後6時	30	7時	30	8時	30	9時	30	10時	30	11時	30	午後1時
行動	午後1時													
同時進行	午後1時													
午後1時	30	午後7時	30	8時	30	9時	30	10時	30	11時	30	午前0時		
行動	午後1時													
同時進行	午後1時													
午後1時	30	午後8時	30	9時	30	10時	30	11時	30	午前0時				
行動	午後1時													
同時進行	午後1時													
午後1時	30	午後9時	30	10時	30	11時	30	午前0時						
行動	午後1時													
同時進行	午後1時													

		月 日 の 天 気							
1.	晴れ	2.	くもり	3.	一時、雨	4.	(ほとんど) ひむ、雨	5.	その他 ( )

★あてはまる番号や記号に( )をつけてください。

Q1: あなたの性別は…… 1. 男 2. 女

Q2: あなたの年齢は……満 ( ) 歳

Q3: お宅の農業形態は……

1. 水田事業
2. 水田+野菜
3. 畜農
4. 農作
5. 果樹
6. その他 ( )

Q4: 経営規模は……

1. 水田 ( ) → タール
2. 畜 ( ) → タール
3. 果樹園 ( ) → タール
4. 乳牛 ( ) 育成牛 ( ) 豚
5. 肉牛 ( ) 専用牛 ( ) 頭 ホルスタイン ( ) 頭
6. その他 ( )

Q5: 現在、あなたの所で農業に従事している人は……

1. 家族 ( ) 人
2. 雇い人 常住 ( ) 人
3. その他 ( ) 人

Q6: あなたの家では

1. 協同経営をして いる いない。
2. 農作業の共同化をして いる いない。